

令和 8 年 7 月 2 4 日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

民生地域常任委員会
掘井 ひさ代

行政視察報告書

先般、実施しました 民生地域常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 1 5 日（水）～令和 8 年 7 月 1 7 日（金）

2 視察メンバー

前田昌宏・掘井ひさ代・宮脇健一・村本洋子・平田真実・河島三奈
高坂純子・河島信行

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市役所

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

＊ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携等、ひきこもり支援ステーションの取組みについて。

（2）熊本県合志市役所

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

＊e スポーツ、脳ケアルームなど、合志市独自の認知症予防について。

（3）福岡県福岡市役所

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

＊農業の担い手確保・育成のため、自営就農を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取組みについて。

4 調査結果

【第 1 日】広島県廿日市市

人口 1 1 4, 5 1 8 人 面積 4 8 9. 4 9 K m²

《視察項目》

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

《視察内容》

事業概要

組織名 はつかいちひきこもり支援ステーション「はつステ」
設 立 令和6年7月1日（事業開始は令和6年4月1日から）
所在地 広島県廿日市市新宮1丁目13番1号 山崎本社みんなのあいプラザ
委託元 廿日市市 健康福祉部 地域共生社会推進室
運営主体 社会福祉法人 廿日市市社会福祉協議会
職員数 2名（令和8年6月末日時点）
事業内容 ひきこもり当事者及びその家族からの相談対応と支援
家族会運営
個別相談会の運営
ひきこもり当事者の居場所運営

はつステの機能

相談支援	① 来所による相談 ② 訪問による相談 ③ 電話による相談 ④ メールによる相談	支援プログラム ① 当事者の居場所 ② 当事者家族の家族会 ③ 専門家の個別相談会
地域連携	① 連絡協議会 ② ネットワークづくり ③ 民間団体との連携	調査・普及啓発 ① 実態把握調査 ② 住民向け講演会

※「はつステ」はひきこもり状態にある当事者やその家族が社会から孤立してしまうことを防ぐために開設。専門の相談員が配置され、相談対応から居場所づくり、社会参加への支援を包括的にサポートする体制を整えることが設立の主な理由。

居場所 令和8年6月1日から社会福祉協議会が主体

開催日：毎週月曜日

時 間：午後1時～午後4時

対 象：ひきこもり当事者および孤立状態の方・・・14人（50代～70代）

内 容：自由に過ごせる場所（読書、ゲームなど）

軽作業（製品の袋詰めなど）・・・*B型作業所より作業を委託

*こども食堂のお弁当作り

*社協の折込をポスティングなど

運動（卓球、バトミントンなど）

※居場所は何をしてもいいのではなく作業をする場所にしている。毎回5人前後が参加。以前は若年層向けの居場所だったが最近は50代からの相談が増加。軽作業をすることで人の役に立っていると実感し、参加者同士の交流が進んでいる。

個別相談会

開催日：奇数月 第4木曜日

時 間：午後5時30分～午後7時30分

対 象：ひきこもり当事者とその家族

内 容：公認心理士による専門相談（医療的相談）

1回50分（1日2組、要予約）

当事者、家族どちらも相談可

家族会

開催日：偶数月 第2土曜日

時 間：午前10時～午後12時

対 象：ひきこもり当事者の家族

内 容：参加者同士の交流

ひきこもり支援に関する情報提供

ひきこもり支援の知識習得



《所 感》

令和6年7月1日に開設された「はつかいちひきこもり支援ステーション（通称：はつステ）」は「山崎本社みんなのあいプラザ」3階の「相談まるとサポートデスク」内に相談員を配置し、ひきこもりに悩む本人、家族、関係者からの相談に幅広く応じている。プラザ内には地域包括支援センター、子ども相談室、障がい福祉相談センターなど、多様な相談機関がワンストップで集約されており、生きづらさを抱える人々に対して極めて有機的かつ迅速に支援がつながる環境が整えられている。

「はつステ」では、本人への支援として 個別相談（電話・面談・メール・訪問）、社会参加支援、就労支援。「居場所」を提供し単に自由に過ごせる空間にとどまらず、就労継続支援B型事業所等と連携した軽作業を実施し「人の役に立っている」という自己肯定感の醸成や、参加者同士の交流を生む仕掛けがなされている。また、家族・関係者への支援として 個別相談のほか「家族会」を運営。精神科医や就労継続支援A型・B型事業所職員による講話、企業・工場・職業訓練校への見学などを実施し、具体的な知識習得と社会復帰に向けたイメージ共有を図っている。

廿日市市におけるひきこもりの推計人数は1,000人～1,300人とされる中、過去2年間の相談件数は107名にとどまっており、「いかに早期発見につなげるか」「地域における理解者・協力者をいかに増やすか」が大きな課題となっており、市民への認識共有の工夫として、兵庫県人権啓発協会が制作したビデオ教材等を活用し、市民向けの人権啓発活動を行っている。

小野市においても、昨年度より「ひきこもり相談・支援」がスタートした。8050問題を見据え、今回の視察事例を参考に、「就労支援」や「居場所づくり」へのさらなる発展を期待する。今年度、兵庫県では人権啓発に「社会におけるひきこもりと人権」を重要テーマに掲げている。多くの市民に当該ビデオを視聴していただくなど、人権学習を通じたひきこもりへの理解促進と支援の輪が広がることを期待している。

私自身、昨年度に「ひきこもりサポーター中級」の資格を取得し、微力ながら支援に取り組んでいる。今回の視察で得た知見をもとに、一人でも多くの市民が生きづらさを解消し、安心して暮らせる小野市の実現に向けて、今後も提言と活動を続けてまいりたい。

【第2日】熊本県合志市

人口 65,540人 面積 53.19Km²

《視察項目》

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

《視察内容》

『ウェルネスシティこうし』について ～合志市市長公室秘書政策課～

「健幸都市こうし」のコンセプト

■「元気・活力・創造のまち」（総合計画第2次基本構想 2016年度～23年度）実現には、市民が健康であるとともに、市行財政も健康でなくてはならない。あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し「健幸都市こうし」（2020年度に宣言）を掲げ、まちづくりを進める。

■「健幸都市こうし」実現に向け、

「市民の心と体の健康」「地域の健康」及び「行財政の健康」を柱に取り組む。

市民の心と体の健康

健康受診率向上や手軽に取り組める健康づくりを広めること

により、市民が生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康寿命の延伸を目指す！

地域の健康

「包括的連携協定」等による産学官民連携を活用し、市内全

域で産業活動が活発に行われ、賑わいを呼び、市民が生き生き

行財政の健康

と働くことができる「稼げる市」をつくることを目指す！

交付金を活用した事業支援

市民と地域産業の共創が生み出すウェルビーイングなまちづくり事業

令和4～6年地方創生推進事業交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）を活用

令和4年度

- ・UD eスポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行なうことを目的とする。
- ・楽しみながら認知機能の検査や認知機能の改善ができる検査ツールを開発。

令和5年度

- ・eスポーツを活用した認知機能測定デジタル化およびデータ利用活用実証業務デジタル化による効率的な測定システムの構築と実装を行い、データの二次利用について検討。
- ・eスポーツでの新たな認知機能改善と見守り業務。

令和6年度

- ・タブレット版UD eスポーツ開発と見守り業務実証

これまでの取組み

*高齢者サロン等における体験会・イベント交流事業

- ・高齢者の認知症予防、障がいのある人の社会参画、就労支援、UD e スポーツの普及啓発を担う人材育成に向けて関係機関と連携し、多くの市民にUD e スポーツの楽しさや効果を実感してもらう

*人材育成事業

- ・取組みの中で、認知機能測定やアンケートを行い、参加者自身の気づきや行動変容を促すとともに、人材育成を通じて職場や地域での主体的な活動に繋げる

*重度障がい者の自立支援

- ・重度障がい者であっても、UD e スポーツをきっかけとして社会とのつながりを実感し、就労へのチャレンジを後押しする

*市ホームページやメディア等を通じて、UD e スポーツの取組みが一人でも多くの市民に広まり・理解が進むように周知活動に努める

事業内容

(1) 高齢者サロン等におけるUD e スポーツの実施

[目的]

UD e スポーツの普及を目的とした体験会（オンライン対戦含む）を実施

[経費]

- ・1回あたり約3～4万円程度（変動有）

[備考]

- ・事業実施期間中に、アンケート等を実施し、注意・認知機能全体の維持に一定の有効性がみられた
- ・参加者からえたデータについては、収集・分析し、新たな開拓先への説明時に活用する

(2) 各施設における人材育成

[目的]

各施設等における自走化を目的として、高齢者サロンの代表者や福祉施設の職員等に対し、UD e スポーツの操作方法等の指導を通じ、効果や楽しさを経験していただきながら、自発的な普及につなげる

[内容]

- ・これまでボランティア人材育成事業を受講した者のフォローアップ
- ・高齢者サロン代表者等に対する人材育成

(3) 重度障がい者の自立支援

[目的]

重度障がい者の社会との関り、就労のきっかけづくり

[内容]

自宅や特別支援学校、障がい者就労支援施設棟において、UD e スポーツの体験をきっかけとした外部との関りづくり、さらに、パソコンデータ入力による就労

に必要な技能習得にもつなげる。

(4) その他の取り組み

ホームページによる周知やテレビ・新聞等のメディア取材対応、各地域への体験案内等のあらゆる機会をとらえて、UD e スポーツの更なる普及を図る。

将来的に目指す姿

- ・補助金に依存せずに、いかに現在の取組を継続（自走化）していくか。契約者（機材購入、毎月利用料支払い）と人材（現場の接続・操作等）の確保が必要。
- ・地域の状況に応じた継続体制の構築を目指し、契約者の候補への働きかけ及び、連携した体験会等の開催に引き続き取り組む。

《所 感》

少子高齢化が進む中、合志市では、「健幸都市こうし」の実現を目指し、市民の健康寿命延伸と介護予防を重点施策に位置付けている。

地域包括支援センターでは、①多種類の教室を開催し、参加しやすい環境を作る②自宅等でも運動に取り組むことができる教材の検討③「きょうよう」「きょういく」の推進。を重点支援目標に掲げ取り組まれている。「合志市元気応援サポートガイド」やQRコードを用いた「通いの場」の検索システムなど、高齢者が無理なく継続でき住民交流の場ともなる環境整備が図られていた。

特に注目すべき点として、UD e スポーツ推進協議会が導入している認知症予防プログラムでは、ボタン 1～2 個の簡易な操作や運動会を模したゲーム内容など高齢者に配慮した工夫により、記憶力や判断力等の認知機能維持・向上だけでなく、遠隔地の家族とのコミュニケーションや見守り機能も備えている。また、これまで介護予防アプローチが届きにくかった男性層を引き付ける非常に効果的な手段となっていた。

本市においても百歳体操やグラウンドゴルフ、健康マージャン等、市民主体で男性女性が気軽に参加できる取組が進められているが、UD e スポーツ等の新たな手法を取り入れた認知症予防の研究・検討を進めることは、高齢者が楽しみながら健康づくりに取り組める環境を一層充実させる上で極めて有効であると強く実感した。

【第3日】福岡県福岡市

人口 1, 671, 893人 面積 343, 47 Km²

《視察項目》

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

《視察内容》

福岡市の農業の現状と施策

～福岡市農林水産局農業政策課～

技術習得等に関する支援

アグリチャレンジ

～福岡市農林水産局総務農林部 担い手育成係～

目的 福岡市内で農業経営を検討している方を対象に、農業者からの指導を受けなが

ら、実際に畑で野菜の栽培を行い、栽培技術について学ぶことができる研修
研修の概要

- (1) **基礎研修（市民農園型）・・・【月 1 回 第 4 土曜日に実施】**
 市民農園を利用し、農家指導のもと農業を体験（農業未経験者向け）
- (2) **基礎研修（実践研修型）平日コース・・・【月 2～3 回 木曜日に実施】**
 野菜栽培の実践及び講義により、土づくり、農薬や農機具の使用方法、直売所
 出荷方法など農業全般について学ぶ
- (3) **基礎研修（実践研修型）休日コース・・・【月 2 回 第 2・第 4 土曜日に実施】**
 上記（2）と同様の内容
- (4) **インターシップ**
 希望の品目を栽培している農家のもとで直接指導を受ける
 ＊薬物野菜・トマト・いちご・花き
 ・受講料 各コース 10,000 円

農業ヘルパー ～（株）JA ファーム福岡～

- ・内容
 農家で働きたい人と人手を求める農家をマッチングし雇用契約をサポート
- ・作業内容
 農作業全般
 ＊作物の収穫、管理作業など多岐にわたり、求人内容によって異なる
- ・作業場所
 福岡市内および近郊
- ・雇用条件
 雇用期間、就業時間、基本賃金などの条件は内容によって異なる



補助金等に関する支援（市の事業）

＊福岡市では、新規就農者の初期投資の負担軽減を図るため、農業用の機械取得及び
 施設整備にかかる費用の一部を補助

・内容

	補助率	補助額の上限
農業用機械	補助対象者経費（税抜）の 10 万円を 超える額の 1 / 2	50 万円 ＊指定地域は 75 万円
農業用施設	＊指定地域は 3 / 5 （勝馬・志賀島・内野・曲渕・脇山 能古・今津・北崎の 8 校区）	100 万円

女性農業者育成事業

～福岡市農林水産局総務農林部 農業政策課～

※女性農業者の育成を目的として、農業経営に積極的に取り組んでいる市内の女性農業者（女性未来農業サポーター等）のもとで、農業技術や経営等に関することなどを直接学ぶインターシップを実施。

※平成28年より、女性の視点を活かして農業経営に積極的に参画し、女性活躍推進の活動に精力的に取り組まれている福岡市が委嘱した女性農業者の方たちで、これまでに福岡県女性農村アドバイザーを務められた方など。サポーターの皆さんは、市の女性農業者支援施策に対する助言や農業研修の受入れなど、様々な活動をされている。

《所 感》

日本の農業が従事者の高齢化や担い手不足、農地保全といった深刻な課題に直面する中、福岡市では都市型農業の強みを生かした先進的な取り組みが行われている。

特に、実践的な研修と市・農業委員会・JA等が一体となった支援体制で自営就農を促す「アグリチャレンジ」や、女性農業者を指導者として女性ならではの視点をいかし、経営や加工・販売まで学べる環境が整備され多様な担い手の育成につながっている「女性農業者育成支援事業（平成28年よりサポーター支援のもと継続）」は、新規就農拡大に大変効果的であると感じた。また、都市近郊の立地を生かした高付加価値化や直売・ブランド化の推進も地域農業の持続的な発展に繋がっていると考える。

広報や求人サイト等を活用した「農業ヘルパー事業」では令和6年度の登録者が67人（男性31人、女性36人）に達し、近年では大学生の参加も増えるなど時代のニーズに応じた労力確保が進められている。一方で福岡市においても、農地の宅地転用や相続による権利分散が進み、新規就農者の農地取得や集約が難航するという課題を抱えている。

小野市の農業における最大の課題は、農業従事者の高齢化が進み、離職する農家が増える一方、農業を継ぐ若者や新たに農業を始める人を十分確保できないこと。また、兼業農家や小規模農家が多く、農地の集積・集約も困難で耕作放棄地の増加が懸念されており、「農地はあるが、将来それを誰が耕し、誰が維持していくか」という点だと考える。

本年度、営農者の減少や高齢化により、地域課題となっている草刈りについて、草刈り作業の受託事業者の拡充を図るため、農業者や農業支援サービス事業者に対し、ラジコン草刈機導入費用の助成が実施されているが、作業労力を補う「農作業ヘルパー事業」の導入は大いに参考になるのではないかと考える。

福岡市の農業施策の特徴は、「行政だけで行う」のではなく、市・JA・農業委員会・県等が役割分担しながら進める体制になっている。小野市においても、「小野市農業再生協議会」にて、現状分析や課題対応に取り組まれている。今後の担い手確保や新規就農者への支援、農地の集積・集約、企業や多様な人材の参入、地産地消や農産物のブランド化など、地域農業の振興が進むことを期待する。

（本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。）

令和8年7月31日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

民生地域常任委員会
平田 真実

行政視察報告書

先般、実施しました 民生地域常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

令和8年7月15日（水）～令和8年7月17日（金）

2 視察メンバー

掘井ひさ代委員長、前田昌宏委員、宮脇健一委員、村本洋子委員、河島三奈委員、高坂純子委員、河島信行委員、平田真実

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市（人口：約11万4千人、面積：489.49Km²）

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携等、ひきこもり支援ステーションの取り組みについて



(2) 熊本県合志市（人口：約6万6千人、面積：53.17Km²）

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

e スポーツ、脳ケアルームなど、合志市独自の認知症予防の取り組みについて



(3) 福岡県福岡市（人口：約167万2千人、面積：343.47Km²）

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

農業の担い手確保・育成のため、自営就農を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取り組みについて



4 調査結果

【第1日】 広島県廿日市市

≪視察項目≫

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はっステ」について

《視察内容》

「はっステ」の概要

開設日： 令和6年7月1日（事業開始は令和6年4月1日）

委託先： 廿日市社会福祉協議会

相談内容： 本人、家族、関係者などからのひきこもりに関する相談

職員配置： 非常勤職員2名

受付時間： 月～金 9:00～17:00

相談形態： 来所、電話、メール、訪問

事業内容： 相談支援、居場所づくり、連絡協議会・ネットワークづくり、当事者会・家族会の開催、住民向け講演会・研修会の開催、実態把握調査（実態把握調査はケアマネへのアンケート調査として令和8年9月頃実施予定）

令和8年度予算： 事業費10,450千円（ひきこもり支援ステーション運営業務委託料）

財源は、生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

廿日市市では、「ひきこもり地域支援センター事業」ではなく、「ひきこもり支援ステーション事業」として実施している。センター事業では専門職の配置が必要だが、人材確保に課題があるため、ステーションとして実施。

廿日市市におけるひきこもりの定義

廿日市市では、厚生労働省が定めるひきこもりの定義以上に、生きづらさを抱える方や他者との交流が希薄な方等も、支援対象者としている。

※厚生労働省が定めるひきこもりの定義

様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念（他者と交わらない形での外出をしてもよい）

ひきこもりに関する支援

当事者支援

ひきこもりに関する相談支援
 ・面談・訪問
 社会参加に関する支援
 ・居場所支援
 ・就労支援
 関係機関との連携



家族支援

当事者に関する相談支援
 ・心理的支援
 ・情報提供
 家族会の開催
 ・経験共有
 ・相互支援
 関係機関との連携

相談件数

	2024年度	2025年度
新規相談件数	49	58
当事者	8	16
家族	23	25
関係機関	18	17
相談件数の内 電話相談	25	19
相談件数の内 メール相談	2	7
個別相談会参加者	6	7
家族会参加者	24	52

男性65% 女性27%

(対象は65歳まで)

10代 7.9%

20代 22.2%

30代 22.2%

40代 28.6%

50代 14.3%

60代 4.8%

※当事者からの相談は男性が多い

居場所（令和8年6月1日から実施）

開催日： 毎週月曜日

時間： 13:00～16:00

対象： ひきこもり当事者及び孤立状態の方

内容： 読書、ゲーム、軽作業（製品の袋詰め等）、運動（卓球、バドミントン等）など、自由に過ごすことができる

個別相談会

開催日： 奇数月の第四木曜日

時間： 17:30～19:30

対象： ひきこもり当事者とその家族

内容： 公認心理士による専門相談、1回50分（1日2組、要予約）、当事者・家族どちらも相談可

家族会

開催日： 偶数月の第二土曜日

時間： 10:00～12:00

対象： ひきこもり当事者の家族

内容： 参加者同士の交流、ひきこもり支援に関する情報提供、ひきこもり支援の知識習得

《所 感》

廿日市市のひきこもり支援ステーション「はつステ」は社会福祉協議会へ委託されていますが、同じフロアに市の窓口が配置されており、非常に連携が取りやすい環境で運用されていました。現時点でSNS相談を全面的に受け付けてはいないものの、関係性が構築できた希望者に対しては社協のLINEアカウントを活用されています。その際、24時間対応が難しいことや、すぐに返信することが難しい場合もあることを事前に周知、了承を得た上で運用されており、ニーズに応えるための工夫がなされていました。やはり、SNSでのやり取りを希望される方はおられるため、今後さらに検討を進めていくとのことでした。当事者や家族の視点に立った相談体制の構築はもちろんのこと、当事者や家族との信頼関係を継続・維持していくためには、「支援スタッフ自身の精神的な負担軽減」に目を向ける必要があるという視点は、非常に大きな気づきとなりました。当事者ご本人のペースを尊重しながら粘り強く訪問を重ね、小さな変化を見逃さずに信頼を築かれた支援事例からは、職員の皆様の強い熱意と専門性が伝わってまいりました。また、フードバンク等との連携をはじめ、他部署や民間団体との協働が不可欠である点も改めて再認識いたしました。そして、特に感銘を受けたのは、居場所づくり「軽作業」を取り入れている点です。「いつ来ても、何をしても良い」という場合は、かえってその自由さがハードルとなることも想像がつくためです。就労継続支援B型事業所から軽作業を分けてもらい、ほとんどボランティアのような形

であるとのことですが、お金が目的ではなく、「何か自分に役割があるなら行ってみよう」と思える動機付けを行っている取り組みは、当事者心理を深く汲み取った実践的な工夫だと感じました。さらに、家族会においては、毎回ゲスト（精神科医や市の福祉担当職員等）を招く時間を設けることで、参加者同士の初期の緊張を和らげ、自然な交流と学びを促進されていました。これらの当事者に寄り添ったきめ細やかな工夫や視点は、小野市における今後のひきこもり支援、家族支援を展開する上で、大変有益であると考えています。

【第2日】熊本県合志市

《視察項目》

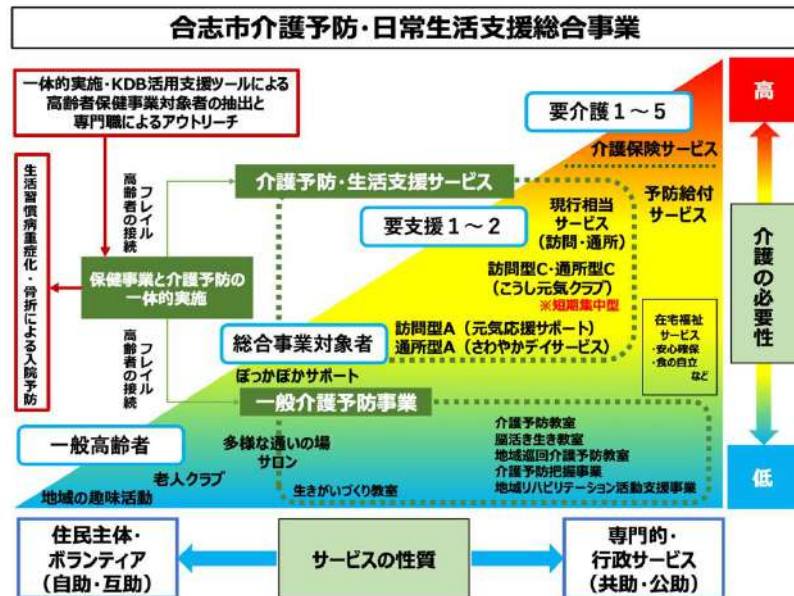
「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

《視察内容》

合志市の現状（菊池圏域）

	合志市	菊陽町	大津町	菊池市
人口	65,222 人	43,846 人	36,470 人	44,902 人
高齢化率	24.5%	21.8%	22.7%	35.1%
介護認定率	18.3%	17.3%	18.8%	19.2%
高齢夫婦世帯率	12%	8.7%	8.3%	12.6%
高齢独居世帯率	9%	7.4%	8.3%	13.4%

	令和5年度	令和17年度(推計)	令和32年度(推計)
要介護3～5	1,001 人	1,451 人	1,697 人
要介護1～2	1,237 人	1,484 人	1,662 人
要支援2	447 人	641 人	685 人
要支援1	247 人	350 人	368 人
事業対象者	184 人	164 人	174 人



※第9期合志市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画より抜粋

「健幸都市こうし」のコンセプト

「元気・活力・創造のまち」実現には、市民が健康であるとともに、市行財政に健康でなくてはならない。あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し「健幸都市こうし」を掲げ、まちづくりを進める。「市民の心と体の健康」「地域の健康」「行財政の健康」を柱に取り組む。

◎「市民の心と体の健康」

健康受診率向上や手軽に取り組める健康づくりを広めることにより、市民が生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康寿命の延伸を目指す。

◎「地域の健康」「行財政の健康」

「包括的連携協定」等による産学官民連携を活用し、市内全域で産業活動が活発に行われ、賑わいを呼び、市民が生き生きと働くことのできる「稼げる市」をつくることを目指す。

産学官等が連携し、市民の健康増進と併せて将来的な医療費削減、地域版ヘルスケア産業の育成環境整備を目的に平成27年に「ウェルネスシティこうし」を設立。公的保険外のサービスを活用したセルフメディケーションを推進し、事業前後に数字の変化を見せるなど、企業等のノウハウを活用しながら、市民が自ら健康や運動に関して、「気づき」、「行動し」、「継続する」ことを支援している。

ウェルネスシティこうし 令和8年6月末時点、正会員10団体

- ・合志市
- ・公立菊池養生園保健組合
- ・(一社) クラッシーノこうし
- ・K u r u - L a b (株)
- ・(株) 藤本物産
- ・(株) セイブクリーン
- ・セイブ管工土木 (株)
- ・(株) くまもと健康支援研究所
- ・合志市商工会
- ・サンコーライフサポート (株)

地方創生推進事業交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）の活用

◎令和4年度

UD e スポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行うことを目的に、楽しみながら認知機能の検査や認知機能の改善ができる検査ツールを開発した。

◎令和5年度

e スポーツを活用した認知機能測定デジタル化とデータ利活用実証業務デジタル化による効率的な測定システムの構築と実装を行い、データの二次利用について検討。e スポーツでの新たな認知機能改善と見守り業務として、自宅等でもe スポーツを楽しむことで、認知機能低下の早期発見や維持、さらには遠隔地に居住のご家族等とのコミュニケーションや見守りが行える機能を構築した。

◎令和6年度

タブレット版UD e スポーツ開発と見守り業務実証を行なった。

UD e スポーツ推進協議会 令和8年5月末時点、正会員9者

令和4年4月1日には、高齢者や障がい者などを対象としたe スポーツに関する活動を行い、誰もが参加できるユニバーサルデザインな社会の実現に寄与することを目的に、UD e スポーツ推進協議会を設立した。

- ・K u r u - L a b (株)

- ・(株) ハッピーブレイン
- ・社会福祉法人合志市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人菊陽町社会福祉協議会
- ・一般社団法人UD e スポーツ協会
- ・菊池市
- ・合志市
- ・大津町
- ・菊陽町

◎事業内容

- ・高齢者サロン等におけるUD e スポーツの実施
- ・各施設における人材育成
- ・重度障がい者の自立支援
- ・その他、UD e スポーツの更なる普及促進活動

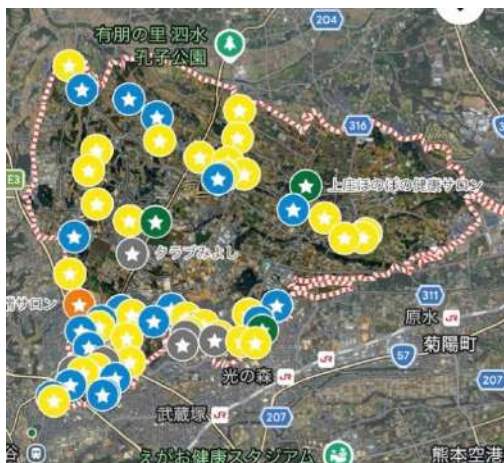
協議会の目的達成のために、補助金に依存せず、いかに現在の取組みを継続していけるかを課題として、契約者と人材の確保が必要であると考えている。地域の状況に応じた継続体制の構築を目指し、契約者の候補への働きかけと体験会等の開催に引き続き取り組む。



自分にあった介護予防の方法を気軽に
探すことのできるフローチャート。

- ・どんどん継続派
- ・ぼりぼり活動派
- ・ぐんぐん健康派
- ・うきうき挑戦派
- ・こつこつ努力派

以上に分類され、おすすめの活動が掲載されている。



QRコードから、地域の通いの場マップを誰でも見る事ができる。合志市内の地域の通いの場をマッピングし、市民が自分にあった通いの場を探しやすくしている。

《所 感》

合志市は、人口増を続ける自治体で、半導体関連企業の進出に加え、中九州横断道路完成等も控えた活気あふれたまちです。小野市と比較すると高齢化率は低い水準にありますが、地域全体で見守りを構築し、住民の行動変容を軸とした介護予防に取り組まれていました。特に印象的だったのは、教室への参加そのものを目的化するのではなく、日常の習慣として運動や社会参加が定着させる姿勢です。地域のつながりの中で孤立や閉じこもりを防ぎ、介護保険に依存せず健康に過ごせることを「健幸」と捉える地域文化の醸成を重視されていました。市としても、地域内の多様な活動の場やコミュニティの把握に努め、それらを丁寧につなぎ合わせる支援を継続しておられます。単に教室を開催して終わりではなく、高齢者が外に出て、地域活動として自主的に持続していく仕掛けづくりに尽力されている点が非常に深く印象に残りました。そうした中で、新たなアプローチとして導入されたeスポーツは、これまでフレイル予防や認知症予防の活動に参加しにくかった男性層などを惹きつける有効な手段となっていました。どのような取り組みにおいても、高齢者自身が「楽しさ」を感じられなければ継続は困難です。行政が一方的に施策を提供するのではなく、地域に眠る多様な「通いの場」を発掘し、ネットワーク化していく重要性を強く実感しました。

【第3日】福岡県福岡市

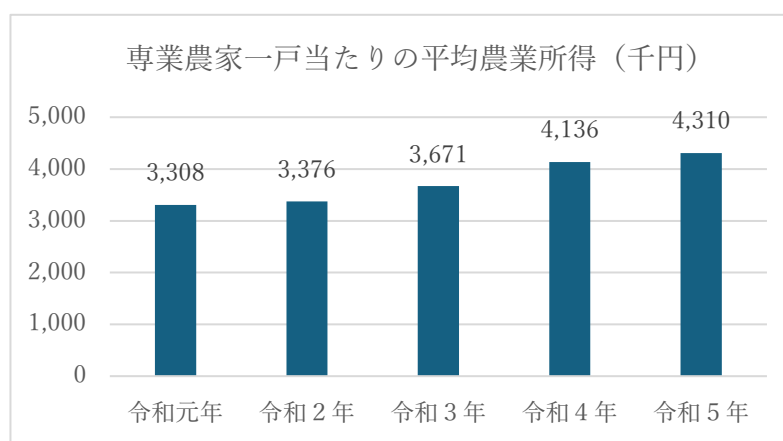
《視察項目》

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

《視察内容》

福岡市の農業の現状

福岡市は、海や山が都心部を囲み、コンパクトな市街地を形成しており、都市と農業が近い都市型農業が特徴である。しかし、平成17年には約5,800人近くおられた農業従事者も、令和2年には2,580人となり、比較的小規模かつ集落営農ではなく個人の兼業農家が多い。福岡市においても農業従事者の高齢化が課題となっており、現在の主力は70代が多いとのことである。令和6年の市内の農地面積2,316haのうち、1,613haが田で、703haが果樹園を含む畑となっている。農地面積に対し、耕作放棄地の割合は13.9%。ここ5年の経過としては横ばいである。令和6年の生産量は、野菜が13,340t、花きが9,496千本、米が4,263t、果樹が366t。令和6年の生産額7,556百万円のうち、野菜2,866百万円、畜産1,874百万円、米1,749百万円、花き788百万円、果樹210百万円、その他となっている。野菜における生産額の上位品目は、いちご、大根、トマト、春菊、スイカ。



（千円）

	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
専兼別 R5 平均農業所得	4,310	2,487	325

※調査対象は福岡市農業協同組合の組合員世帯3,279戸（回答数425戸）

福岡市における認定農業者の農業所得目標は4,400千円程度以上としている。

福岡市担い手育成支援協議会

J A福岡市、J A福岡市東部、福岡普及指導センター、福岡市農業委員会、福岡市等で組織し、連携した就農支援を実施している。

アグリチャレンジ

福岡市内で農業経営を検討している方を対象に、農業者から指導を受け、実際に畑で野菜の栽培を行いながら、栽培技術などについて学ぶことができる。

◎市民農園型の基礎研修

◎実践研修型の基礎研修 平日コース/休日コース

があり、4～10ヶ月のコースとなっている。

その他にも、インターンシップとして、希望の品目を栽培している農家のもとで直接指導を受けるコースもある。

その他、女性の視点を活かす取り組み

◎福岡市女性未来農業サポーター

農業経営に積極的に参画し、女性活躍推進の活動に精力的に取り組まれている女性農業者に市がサポーターとして委嘱。市の女性農業者支援施策に対する助言や農業研修の受入など様々な活動をしている。

◎女性農業者育成事業

女性農業者の育成を目的に、女性未来農業サポーター等のもと、農業技術や経営等に関することなど直接学ぶことのできるインターンシップを実施している。農業の経験は問わず、これから就農を考えている方、スキルアップをしたい農業者のかた、農業を勉強したいという意欲のある方を募集し、1対1で受け入れている。(アグリチャレンジのインターンシップコースとは別)



就農ガイドには、農業とのかかわり方、独自自営就農までの流れ、技術習得や補助金等に関する支援、農業に従事しておられる方のそれぞれのストーリー、各種相談窓口に関する情報が記載されている。

新規就農スタートアップ支援事業

国の新規収納者育成総合対策に加え、市独自支援事業として以下の取り組みを実施している。

内容：農業用機械、施設の導入を支援

補助率：補助対象事業費（税込）の10万円を超える額のうち2分の1以内

※指定地域は5分の3以内

補助上限額：農業用機械 50万円（※指定地域は75万円）

農業用施設 100万円

要件：新規就農5年以内または当該年度中に就農予定の方で、次の要件をすべて満たす方

- ① 農地の利用権等を取得済または取得手続き中であること
- ② 農業の経営面積の合計が一定面積以上の方（指定地域は面接要件なし）

※他要件あり

《所 感》

福岡市の農業においても高齢化や担い手不足等の課題が見られますが、小野市においては水稻が作付面積の9割を占める点や、大都市である消費地への距離感など、農業構造の違いがあります。そのような違いを踏まえた上で、福岡市の農業政策は、「農業を始めてみたい」という方のニーズを的確に捉え、国の施策だけではカバーしきれない部分を市独自の支援で補うなど、随所に農業に対する熱意を感じました。福岡市は、雇用就農の受け皿が比較的少なく、独立自営就農を目指す農業政策であるからこそ、希望者に対する本気度の聞き取りを丁寧に行なっておられます。就農ガイドを効果的に活用しながら、独立自営就農を希望される方には、資金確保に関する情報提供を行うとともに、技術習得はJA等の関係機関と密に連携して取り組まれていました。また、福岡市ほどの都市規模であっても、行政に専門の農業技術職は配置されておらず、技術的な専門性の部分での支援はJAに委ね、市は経営支援に特化するという明確な役割分担がなされている点も印象的でした。一方で、農地の流動性をいかに高めるかが課題として挙げられており、大規模農家の育成や新規就農のハードルが存在する印象も受けました。小野市においても、集落営農組織を含めた次の世代への継承が喫緊の課題であり、今後も他の自治体の先進事例から積極的に学びを得、関係機関で連携を密にしながら、担い手確保策等、本腰を入れて取り組む必要があります。女性の視点を活かした取り組みなど、自治体として打てる施策を今後も研究していく必要があると考えます。

（本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。）

令和8年7月29日

小野市議会議長 喜始真吾 様

民生地域常任委員
前 田 昌 宏

行政視察報告書

先般、実施しました行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察日 令8年7月15日（水）～17日（金）

2 視察メンバー

掘井ひさ代、平田真実、前田昌宏、宮脇健一、村本洋子、河島三奈、
高坂純子、河島信行

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市（人口：114,173人、面積：489.49Km²）

○廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

（2）熊本県合志市（人口：61,392人、面積：53.19Km²）

○「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

（3）福岡県福岡市（人口：1,612,406人、面積：343.47Km²）

○農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

4 調査結果

【第1日】

≪視察項目≫

広島県廿日市市

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

1. 事業概要

設立 : 令和6年7月1日
委託元 : 廿日市市 健康福祉部
運営主体 : 廿日市市 社会福祉協議会
職員数 : 2名

事業内容

- ・ ひきこもり当事者及び家族からの相談対応と支援
 - ・ 家族会の運営
 - ・ 個別相談会の運営
 - ・ 事者の居場所運営
- ※生活困窮者の相談にも対応

2. 「はつステ」の機能

(1) 相談支援

- ① 来所相談
- ② 訪問相談
- ③ 電話相談
- ④ メール相談

※ SNS 相談は未対応（タイムリーな対応が困難なため）

(2) 支援プログラム

- ① 当事者の居場所
- ② 家族会
- ③ 専門家の個別相談会（第4木曜日の夜）

(3) 地域連携

- ① 連絡協議会の開催
- ② ネットワークづくり
- ③ 民間団体との連携

(4) 調査・普及啓発

- ① 実態把握調査（「ケアマネージャへのアンケート」）
- ② 住民向け講演会

(5) 居場所づくり

開催日：毎週月曜日

時 間：午後 1 時～午後 4 時

内 容：

- ・自由に過ごせる場所（読書、ゲームなど）
- ・軽作業（製品の袋詰めなど）
- ・運動（卓球、バドミントンなど）

性別・年代別相談内訳



65%

男性

全国：6 割から 7 割程度



27%

女性

全国：3 割から 4 割程度

※性別不明は 8 % 程度

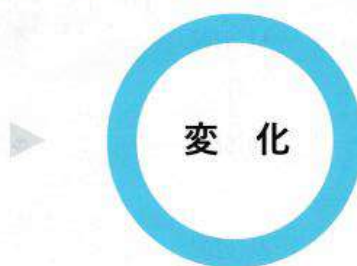
10代	7.9%	他県の調査（5.0%）より 少し上回っている
20代	22.2%	他県の調査（10.9%）より 大きく上回っている
30代	22.2%	他県の調査（22.0%）と ほぼ同じ
40代	28.6%	他県の調査（28.0%）と ほぼ同じ
50代	14.3%	他県の調査（19.5%）より 下回っている
60代	4.8%	他県の調査（13.6%）より 大きく下回っている

※全国の年代別の数値がないため、他県の調査結果と比較している

支援事例：長期間自宅中心生活の支援事例③



- ・実兄と口論をきっかけに家を出ることを考える
- ・自分で近所の飲食店へ行き食事をする
- ・「家を出て生活したい」と支援者に相談する



- ・自分の考えを職員へ話せるようになった
- ・将来について考えるようになった
- ・福祉制度の利用に前向きになった
- ・自ら生活環境を変えようと決断した



- ・障害者手帳を取得した
- ・障害年金を受給できた
- ・グループホームへ入所することができた
- ・就労継続支援 B 型へ通所ができた
- ・地域生活を継続できている

支援から見たこと

- ・本人の意思を尊重しながら支援を継続したことが、地域生活への移行につながった。
- ・小さな変化を積み重ねることで、35年間続いた生活に大きな変化が生まれた。

支援者が人生を変えたのではなく、本人が人生を変える決断を支えた事例

《所感》

廿日市市では、ひきこもり支援ステーション「はつステ」を設置し、相談支援にとどまらず、訪問支援や居場所の提供を行っている点が特徴である。

居場所の提供においては、孤立の解消や生活リズムの回復を目的とし、「好きな時に来て、好きな時に帰ることができる」という緩やかな環境づくりにより、利用の継続につながっている点が重要と感じた。さらに、製品の袋詰め等の軽作業を取り入れている点も興味深く、作業を介することで周囲に過度な気遣いをせず参加しやすいとの利用者の声があることから、他の施設への展開も期待される取組である。

また、訪問支援については、長期間自宅中心の生活を送っていた方への支援事例が特に印象的であった。2名体制によるチームでの定期訪問において、本人の意思を丁寧に尊重しながら関係性を築き、支援を継続した結果、地域生活への移行につながったことが報告されており、伴走型支援の重要性を示す好事例として評価できる。



【第2日】

≪視察項目≫

熊本県合志市

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

1. 認知症予防

(1) eスポーツ活用（特徴的な取組み）

- ・高齢者向けに簡単操作のゲームを活用
- ・楽しみながら認知機能を刺激
- ・実施前後で効果測定（テスト）を実施

<ポイント>

「楽しさ」と「継続性」を重視し、コロナ禍で減少した交流機会の回復にも寄与

(2) 脳活・音楽・交流プログラム

- ・脳トレや音楽サロンを通じた認知機能の維持
- ・閉じこもり防止・社会的孤立の解消

(3) 相談・支援体制の整備

- ・認知症カフェの設置
- ・家族のつどいの開催

2. フレイル予防（身体機能低下の防止）

(1) 運動プログラムの実施

- ・介護予防教室の実施
- ・筋活（筋力向上）、骨活、音楽教室、リハビリなどの多様なメニュー
- ・個人の体力に応じて選択可能
- ・健脚墊による歩行機能向上

(2) 日常的な活動量の向上

- ・バーチャルウォーキング大会
- ・活動量計による歩数の「見える化」

(3) 社会参加・地域活動の促進

- ・高齢者サロン、元気クラブ、ボランティア制度など
- ・「役割」や「つながり」を持つことでフレイルを予防

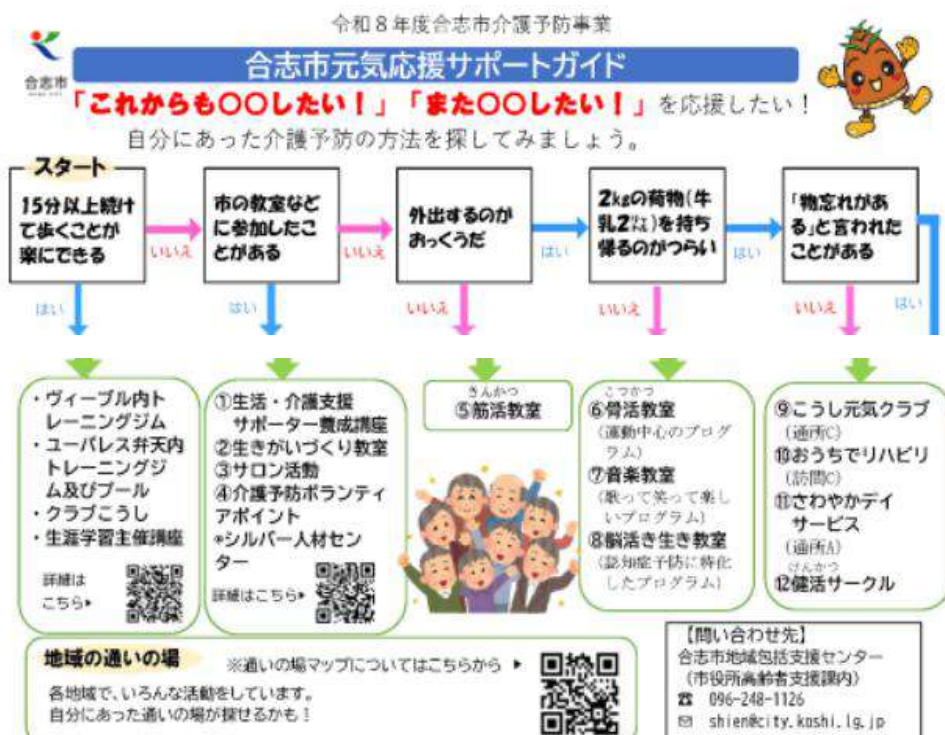
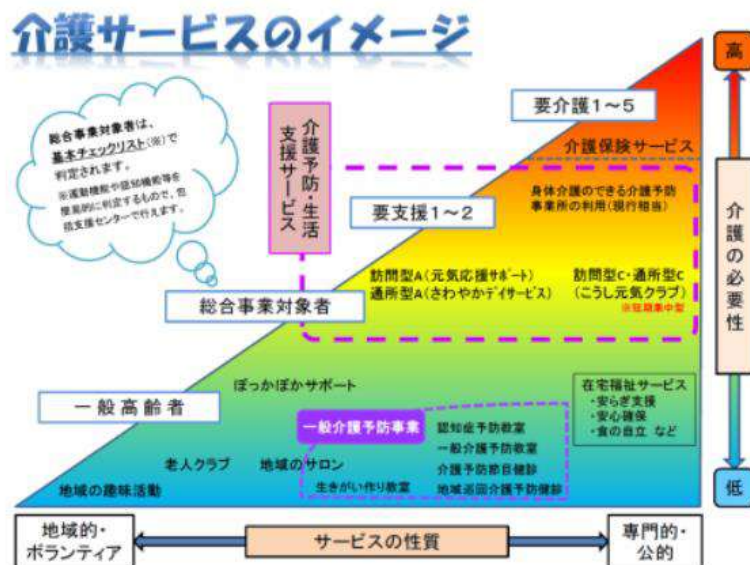
3. デジタル・DX の活用

- ・オンライン運動プログラムの配信
- ・活動量データの可視化
- ・e スポーツなど ICT 活用

<特徴>

健康づくりを「見える化・楽しむ化」している点が特徴

合志市の総合事業のイメージ図



《所感》

合志市では、認知症予防の取組みとしてeスポーツを活用している点が特徴である。「楽しさ」と「継続性」を重視しながら認知機能を刺激する仕組みは大変興味深い。

また、地元企業と連携し、高齢者でも扱いやすいゲームソフトやコントローラの改良を行っている点は、先進的な官民連携の好事例であると評価できる。さらに、実施前後の効果測定において、眼球運動の速度向上といったデータが得られているなど、定量的な評価を行っている点も重要である。

今後、検証を重ね、科学的な有効性が明確になれば、他自治体への展開も期待される。一般に参加率が低いとされる男性の参加を促す手段として、eスポーツは有効であると感じた。



【第3日】

《視察項目》

福岡県福岡市（人口：1,612,406人、面積：343.47Km²）

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

1. 背景・目的

福岡市は大都市でありながら市内に農地を有し、都市近郊型農業を展開している点が特徴である。近年は農業従事者の高齢化や担い手不足が全国的な課題となる中、多様な人材確保・育成に向けた独自の施策を展開している。

本視察では、以下の担い手育成施策について調査した。

- (1) 農の応援事業
- (2) アグリチャレンジ事業
- (3) 女性農業者育成事業

2. 農の応援事業

① 概要：農業の労働力不足を補う仕組み

② 内容

- ・農作業ヘルパーを募集・登録
- ・農家とのマッチング

③ 特徴

- ・未経験者でも参加可能
- ・就農前の体験機会にもなる

※ 労働力確保と新規参入のきっかけづくりを兼ねた施策



3. アグリチャレンジ事業

- ① 概要：就農希望者に対する実践的な研修＋インターンシップを提供
- ② 対象：福岡市内で自営就農を目指す 18 歳以上
- ③ 内容：農業技術の習得＋就農までの支援
受講料：1 万円程度
- ④ 研修内容（4 つのコース）
 - （1）市民農園型コース（土曜日）
 - （2）実践研修型コース（土曜日）
 - （3）実践研修型コース（木曜日）
 - （4）インターンシップ

4. 女性農業者育成事業

- ① 概要：女性に特化した実践型インターン制度
- ② 内容
女性農業者のもとのインターンシップ
 - ・市内の女性農家が「受入農家」となる
 - ・農業技術・経営・加工・販売を現場で習得
 - ・品目：野菜、米、花き、加工品など多様
- ③ 特徴（重要ポイント）
 - ・研修期間：農家と個別調整し柔軟に設定
 - ・女性農業者（ロールモデル）から直接指導
 - ・技術だけでなく、経営・販路・6 次産業化まで学べる点が強み

《所感》

大都市近郊農業の実態詳しく学ぶことができ、大変有意義な視察であった。

福岡市の食文化は豊かである。地元産農産物の活用は、食の安心・安全に加え、地域農業の振興と都市のブランド力向上にも寄与することから、農業施策の大きなモチベーションになっていることを理解した。

全国的に課題となっている農家の高齢化と担い手不足への対応として、JA や普及センターと連携し、「体験 → 技術習得 → 就農」までを一貫して支援する仕組みを構築している点は特筆すべき取組である。

一方で、都市近郊であるがゆえの課題も明らかとなった。当初は、鮮度を強みとした野菜や果実の生産が盛んであると想定していたが、実際には近郊の農業地帯から供給される農産物との競争により、市内農業は必ずしも優位にあるとは言えない状況にあることに驚かされた。また、地価の上昇が見込まれる地域特性から、農地を手放し

たり貸し出したりする動きが限定的であり、その結果として農地の集積化が進みにくいという点も課題である。

九州の玄関口として今後ますます発展が期待される福岡市において、農村の維持と都市のブランド力向上の双方に資する農業振興のあり方に、今後も注目したい。

(本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及び HP 等を参考とした。)



令和8年7月21日

小野市議会議長 喜始真吾様

民生地域常任委員会
宮脇健一

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和8年7月15日（水）～令和8年7月17日（金）

2 視察メンバー

掘井ひさ代 平田真実 前田昌宏 宮脇健一 村本洋子 河島三奈 高坂純子 河島信行

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市（人口：約11万5千人、面積：489.49Km²）

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携等、ひきこもり支援ステーションの取り組みについて視察する。

（2）熊本県合志市（人口：約6万5千人、面積：53.19Km²）

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

Eスポーツ、脳ケアルームなど、合志市独自の認知症予防の取り組みについて視察する。

（3）福岡県福岡市（人口：約160万人、面積：343.47Km²）

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

農業の担い手確保・育成のため、自営就農を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取り組みについて視察する。

4 調査結果

【第1日】

広島県廿日市市

人口：約11万5千人、面積：489.49Km²

《視察項目》

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について

《視察内容》

1. はつステってどんなところなの？

✓事業概要

- ・組織名 はつかいちひきこもり支援ステーション「はつステ」
- ・設立 令和6年7月1日（事業開始は令和6年4月1日から）
- ・所在地 広島県廿日市市新宮1丁目13番1号 山崎本社みんなのあいプラザ
- ・委託元 廿日市市 健康福祉部 地域共生推進室
- ・運営主体 社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会
- ・職員数 2名（令和8年6月末時点）
- ・事業内容 ひきこもり当事者及びその家族からの相談対応と支援
家族会の運営
個別相談会の運営
ひきこもり当事者の居場所運営

✓はつステの機能

- ・相談支援 来所による相談
訪問による相談
電話による相談
メールによる相談
- ・支援プログラム 当事者の居場所
当事者家族の家族会
専門家の個別相談会
- ・地域連携 連絡協議会
ネットワークづくり
民間団体との連携
- ・調査・普及啓発 実態把握調査
住民向け講演会

2. はつステはどんなことをしてるの？

✓ひきこもりの定義

- ・厚生労働省が定めるひきこもりの定義
様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則6ヶ月以上にわたって概家庭にとどまり続けている状態（他社と交わらない形での外出をしてもよい）

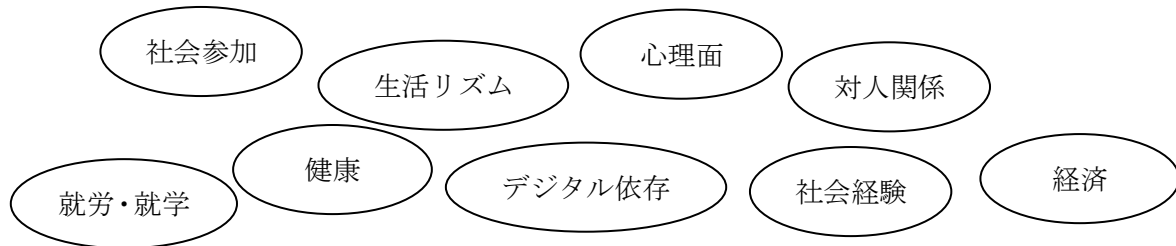
ひきこもりとは？

支援対象者

=

- ・生きづらさ
- ・他社との交流が希薄
- ・支援が必要

✓ひきこもり当事者の課題



✓ひきこもりの支援

当事者支援

- ① ひきこもりに関する相談支援
 - ・面談
 - ・アウトリーチ（訪問）
- ② 社会参加に関する支援
 - ・居場所支援
 - ・就労支援
- ③ 関係機関との連携

×

家族支援

- ① 当事者に関する相談支援
 - ・心理的支援
 - ・情報提供
- ② 家族会の開催
 - ・経験共有
 - ・相互支援
- ③ 関係機関との連携

✓相談内訳

ひきこもりの相談	2024年度	2025年度	増減	増減率		
新規相談件数	49	58	9	18.3%		
当事者	8	16	0	0.0%		
家族（知人含む）	23	25	5	16.1%		
関係機関	18	17	4	36.3%		
※うち電話相談	25	19	▲8	▲32.0%		
※うちメール相談	2	7	4	200.0%		
個別相談会参加者	6（※1）	7	1	16.6%		
家族会参加者	24（※2）	52	28	116.6%		

※1 2024年度の個別相談会は2024年9月から開催のため、年4回の開催となった（2025年は6回開催）

※2 2024年度の家族会は2024年8月から開催のため、年4回の開催となった
(2025年は6回開催)

✓性別・年代別相談内訳

男性 65% (全国：6割から7割程度)

女性 25% (全国：3割から4割程度)

※性別不明は8%程度

- ・10代 7.9% 他県の調査(5.0%)より少し上回っている
- ・20代 22.2% 他県の調査(10.9%)より大きく上回っている
- ・30代 22.2% 他県の調査(22.0%)とほぼ同じ
- ・40代 28.6% 他県の調査(28.0%)とほぼ同じ
- ・50代 14.3% 他県の調査(19.5%)より下回っている
- ・60代 4.8% 他県の調査(13.6%)大きく少し下回っている

※全国の年代別の数値がないため、他県の調査結果と比較している

✓居場所

開催日：毎週月曜日

時 間：午後1時～午後4時

対 象：ひきこもり当事者および孤立状態の方

内 容：自由に過ごせる場所(読書、ゲームなど)

軽作業(製品の袋詰めなど)

運動(卓球、バトミントンなど)

✓個別相談会

開催日：奇数月 第4木曜日

時 間：午後5時30分～午後7時30分

対 象：ひきこもり当事者とその家族

内 容：公認心理士による専門相談

1回50分(1日2組、要予約)

当事者、家族どちらも相談可

✓家族会

開催日：偶数月 第2土曜日

時 間：午前10時～午後12時

対 象：ひきこもり当事者の家族

内 容：参加者交流

ひきこもり支援に関する情報提供

ひきこもり支援の知識習得

《所 感》

ひきこもり支援では、就労や社会復帰を急がせるのではなく、本人と家族との関係を切らさず、長期的に伴走することが重要であると感じた。「はつステ」では、相談、訪問、居場所づくり、家族会、専門相談などを一体的に行い、本人だけでなく家族も支援対象としている。

特に、約 35 年間、自宅中心の生活を送っていた 50 代男性に対し、反応が乏しい時期から定期的な訪問を継続し、本人のペースを尊重して関係を築いた事例が印象に残った。その結果、本人が「家を出て生活したい」と意思を示し、障害福祉制度の利用やグループホームへの入所、就労継続支援 B 型事業所の利用につながった。支援者が人生を変えるのではなく、本人が変わろうとする決断を支えることの大切さを示す事例であった。

小野市においても、来所相談だけでなく、電話、メール、訪問など相談手段を広げ、福祉、保健、医療、就労等の関係機関が連携して支援を継続できる体制が必要である。既存の相談機関や地域資源をつなぎ、本人の小さな変化を見逃さず、長期的に支える仕組みづくりに生かしていくべきである。



【第 2 日】

熊本県合志市

人口：約 6 万 5 千人、面積：53.19 Km²

《視察項目》

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

《視察内容》

✓ 「健幸都市こうし」のコンセプト

- ・「元気・活力・創造のまち」（総合計画第 2 次基本構想 2016 年度～2023 年度）
実現には、市民が健康であるとともに、市行財政も健康でなくてはならない。あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し「健幸都市こうし」（2020 年度に宣言）を掲げ、まちづくりを進める。
- ・「健幸都市こうし」実現に向け、「市民の心と体の健康」、「地域の健康」及び「行財政の健康」を柱に取り組む。

市民と心と体の健康 > 健診受診率向上や手軽に取り組める健康づくりを広めることにより、市民が生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康寿命の延伸を目指す！

地域の健康 > 「包括的連携協定」等による産学官民連携を活用し、市内
行財政の健康 全域で産業活動が活発に行われ、賑わいを呼び、市民が生き生きと働くことのできる「稼げる市」をつくることを目指す！

✓ ウェルネスシティこうしの設立

- ・産学官等が連携し、市民の健康増進と併せて将来的な医療費削減、地域版ヘルスケア産業環境整備を目的に2015年に「ウェルネスシティこうし」を設立しました。
- ・公的保険外のサービスを活用したセルフメディケーションを推進し、事業前後に数字の変化を見せるなど、企業等のノウハウを活用しながら、市民自ら健康や運動に関して、「気づき」、「行動し」、「継続する」ことを支援しています。

正会員（10団体）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・合志市 | ・(株)セイブクリーン |
| ・公立菊地養生園保健組合 | ・セイブ管工土木(株) |
| ・(一社) クラッシーノこうし | ・くまもと健康支援研究所 |
| ・Kuru-Lab(株) | ・合志市商工会 |
| ・(株)藤本物産 | ・サンコーライフサポート(株) |

R8.6 末時点

✓ 交付金を活用した事業支援

市民と地域産業の共創が生み出すウェルビーイングなまちづくり事業

令和4～6年地方創生推進事業交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）

令和4年度

- ・Ude-スポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行うことを目的とする。
- ・楽しみながら認知機能の検査や認知機能の改善ができる検査ツールを開発。

令和5年度

- ・e スポーツを活用した認知機能測定デジタル化およびデータ利活用実証業務デジタル化による効率的な測定システムの構築と実装を行い、データの二次利用について検討。
- ・e スポーツでの新たな認知機能改善と見守り業務
自宅等でもe スポーツを楽しむことで、認知機能低下の早期発見や維持、さらには遠隔地に居住のご家族等とのコミュニケーションや見守りが行える機能を構築した。

令和6年度

- ・タブレット版 Ude-スポーツ開発と見守り業務実証

健康を市民個人の問題にとどめず、「市民の心と体の健康」「地域の健康」「行財政の健康」を一体として捉え、まちづくり全体の理念に位置付けている点が印象に残った。健康寿命の延伸だけでなく、将来的な医療費の抑制や地域産業の活性化まで見据えており、福祉施策と産業政策を結び付けていることが特徴である。

小野市においても、健康づくりを単発の教室や啓発に終わらせず、参加前後の数値を示して効果を実感できる仕組みや、楽しみながら継続できる事業を取り入れることが重要である。その際には、新たな組織や事業を一から立ち上げるだけでなく、既存の健康施策や高齢者の集いの場に、民間の技術やデジタル機器を組み合わせるなど、小野市の規模に合った産学官民連携の在り方を検討する必要がある。

福岡県福岡市

人口：約160万人、面積：343.47 Km²

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

農の応援事業について

[illegible]

✓アグリチャレンジ

福岡市内で農業経営を検討している方を対象に、農業者からの指導を受け、実際に畑で野菜の栽培を行いながら、栽培技術などについて学ぶことができる。

(1) 基礎研修（市民農園型）

市民農園を利用し、農家指導のもと農業を体験（農業未経験者向け）

（募集人数）10人程度

(2) 基礎研修（実践研修型平日コース・休日コース）

野菜栽培の実践及び講義により、土づくり、農薬や農耕具の使用方法、直売所出荷方法など農業全般について学ぶ

（募集人数）15人程度

(3) インターンシップ

希望の品目を栽培している農家のもとで直接指導を受ける

（これまでに農業経験があるなど就農に向けて希望の品目がある方向け）

※葉物野菜、トマト、いちご、花き など

（募集人数）4人程度

✓基礎研修の流れ（天候等により、内容を変更する場合がある。）

(1) 市民農園型

■一日の流れ

（9時～12時）農作業（畑にて野菜の生育管理や、収穫等）

※月1回の研修日以外にも、作物の生育状況に応じて管理作業を行う。

■年間スケジュール（主なもの）

4月 開講式

5月～ 夏野菜の管理・収穫

8月～ 秋冬野菜の種まき・管理

11月～ 収穫

2月 閉講式

(2) 実践研修型（平日コース・休日コース）

■一日の流れ（9時～15時）

（例）午前：農作業（畑にて野菜の生育管理や、収穫・袋詰め等）

午後：講義（土づくり、肥料・農薬の使い方、管理方法等）

■年間スケジュール（主なもの）

5月 開講式

5月～ 夏野菜の管理・収穫

8月～ 秋冬野菜の種まき・管理

11月～ 収穫・販売実習

2月 トラクター等実習

3月 閉講式

■参加者の声

- ・研修を受講し、農業の基礎知識を学んだり、相談に乗ってもらったことで、就農に向けた具体的なイメージを持つことができ、スムーズに就農することができた！
- ・研修修了後に就農し、一緒に研修を受講した仲間と情報交換するなどの交流が続いている！
- ・研修受講をきっかけに、農家のもとで働くようになり、農業を仕事とすることができた！
- ・就農したばかりで、農業の知識が乏しく、うまく野菜を栽培することができていなかったが、研修により失敗の原因がわかるようになり、うまく野菜を栽培できるようになった！
- ・自分たちで作った野菜を直接販売する研修を通して、農家のやりがいや達成感、喜びを味わうことができた！

✓女性農業者育成事業

■インターンシップ受講生を募集

- ・女性農業者の育成を目的として、農業経営に積極的に取り組んでおられる市内の女性農業者（女性未来農業サポーター等）のもとで、農業技術や経営等に関することなどを直接学ぶことのできるインターンシップを実施。
- ・これから就農を考えている方やスキルアップをしたい農業者の方、農業を勉強したいという意欲のある方を募集。
- ・農業の経験は問わず。

■インターンシップ受入農家

- ・東区三苫
いちご、野菜（オクラ、大根、ブロッコリーなど）[施設・露地栽培]
- ・博多区麦野
野菜（玉ねぎ、キュウリ、ミニトマトなど）[施設・露地栽培]
- ・早良区内野
生姜、生姜の加工品
- ・西区金武
野菜（カブ、大根、ナスなど）[施設・露地栽培]、農業法人経営
- ・西区姪浜
西洋野菜（チコリ、フェンネルなど）、ハーブ類 [施設・露地栽培]
- ・古賀市青柳
野菜（ナス、小松菜、春菊など）[施設・露地栽培]

■対象者

市内に居住する18歳以上の女性（夫婦での参加も可）
自家用車や公共交通機関等で研修場所に通える方

■受講料

無料

■参加者の声

- ・女性ならではの農作業の工夫、効率化を学べた。
- ・農業の基礎的な知識をはじめ、多品目栽培に重要なスケジュール管理について具体的に知る貴重な機会となった。
- ・直売所への出荷や飲食店との直接契約など多様な販路について学べた。
- ・想像するしかなかった農業の現場を体験でき、自分に合った農業との関わり方を考えられるいい経験になった。
- ・食に関わる仕事をしているが農業のことは無知だった、現場で直に聞くことは多くの驚きがあり楽しくたくさん学びがあった。

《所 感》

福岡市では、農業に関心を持つ市民から本格的な自営就農を目指す人まで、経験や目的に応じて段階的に学べる研修体系が整えられている。市民農園型では未経験者が農作業に触れ、実践研修型では栽培管理や農薬、農機具の使用、出荷・販売まで学び、さらにインターンシップでは希望する品目を扱う農家のもとで、実地に技術や経営を学ぶことができる。単なる農業体験に終わらず、就農後の姿を具体的に描ける仕組みとなっている点が印象に残った。

また、行政による面接に加え、受入農家との面談を行って双方の意向を確認し、品目や研修内容のミスマッチを防いでいる点も参考になった。女性農業者育成事業では、先輩女性農業者から農作業の工夫や効率化、販路、経営について直接学ぶことで、技術の習得だけでなく、就農後も相談できる関係づくりにつながっている。

小野市においても、農業体験、農業法人等への就業、自営就農など、希望者の段階に応じた支援を行い、研修後の就農状況の把握や地域農家との継続的な交流まで含めた伴走型の仕組みを検討する必要がある。



(本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。)

令和 8 年 7 月 27 日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

民生地域常任委員会
村本 洋子

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 15 日（水）～令和 8 年 7 月 17 日（金）

2 視察メンバー

掘井ひさ代委員長、平田真実副委員長、前田昌宏委員、宮脇健一委員、
河島三奈委員、高坂純子委員、河島信行委員、村本洋子委員

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市（人口：約 11 万 4 千人、面積：489・49K m²）

はつかいちひきこもり支援ステーション「はつステ」について

ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携等、ひきこもり支援ステーションの取り組みについて視察。

（2）熊本県合志市（人口：約 6 万 5 千人、面積：53・19K m²）

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

e スポーツスポーツ、脳ケアルームなど、合志市独自の認知症予防の取り組みについて視察。

（3）福岡県福岡市（人口：約 167 万 1 千人、面積：343・47K m²）

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

農業の担い手確保・育成のため、自営就農を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取り組みについて視察。

4 調査結果

【第1日】

広島県廿日市市

人口 114,518 人 面積 489.49 K m²

《視察項目》

はつかいちひきこもり支援ステーション「はつステ」について

《視察内容》

事業概要

- 設立 令和6年7月1日
- 所在地 山崎本社みんなのあいプラザ
- 委託元 廿日市市 健康福祉部 地域共生社会推進室
- 運営主体 廿日市市社会福祉協議会
- 職員数 2名
- 事業内容 ひきこもり当事者及びその家族からの相談対応と支援、居場所づくり
連絡協議会・ネットワークづくり、当事者会・家族会の開催、
住民向け講演会・研修会の開催、実態把握調査
- 令和8年度の予算
事業費 10,405 千円
財源 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
補助限度額 10,000 千円

相談内訳 2025年度

- 新規相談件数 58 件、当事者 16 件・家族 25 件・関係機関 25 件
- うち電話相談 19 件、メール相談 7 件
- 個別相談会参加者 7 人
- 家族会参加者 52 人

性別・年代別相談内訳

男性 65% 女性 27% 不明 8%

10代 7.9%、20代 22.2%、30代 22.2%、40代 28.6%、50代 14.3%、60代 4.8%

居場所

- 開催日 毎週月曜日
- 時間 午後1時～午後4時
- 対象 ひきこもり当事者および孤立状態の方
- 内容 自由に過ごせる場所（読書、ゲームなど）
軽作業（製品の袋詰めなど）
運動（卓球、バドミントンなど）

個別相談会

- 開催日 奇数月 第4木曜日
- 時間 午後5時30分～午後7時30分
- 対象 ひきこもり当事者とその家族
- 内容 公認心理士による専門相談
1回50分（1日2組、要予約）
当事者、家族どちらも相談可

家族会

- 開催日 偶数月 第2土曜日
- 時間 午前10時～午後12時
- 対象 ひきこもり当事者の家族
- 内容 参加者同士の交流
引きこもり支援に関する情報提供
引きこもり支援の知識習得

《所 感》

廿日市市の職員の方から、兵庫県の人権のビデオが素晴らしいので使わせて頂いていると、お聞きしました。大変光栄に思うとともに、もっと引きこもりについて正しく学び、情報提供できるよう努力したいと思いました。今年度は小野市においてもヒューマンライフ協議会でひきこもりについての人権学習に取り組んでいます。

若年層から高齢者まで幅広い年齢層の方が他者との交流が希薄で、生きづらさを感じていることがわかりました。今後ますます8050問題などひきこもりの相談・支援が重要になっていくと思われます。早期発見で一人一人にあった支援が受けられ、安心してつながれる居場所、「はつステ」のようなひきこもり支援センターが小野市においても必要だと思いました。ひきこもりの理解を深め、当事者や家族に寄り添い、誰もが安心して暮らせるようにつなげていくことが大事だと思いました。



【第2日】

熊本県合志市

人口 65,540 人 面積 53.19K m²

《視察項目》

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

《視察内容》

「ウエルネスシティこうし」について

「健幸都市こうし」のコンセプト

- 「元気・活力・創造のまち」（総合計画第2次基本構想 2016年度～2023年度）実現には、市民が健康であるとともに、市行財政も健康でなくてはならない。あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し「健幸都市こうし」（2020年度に宣言）を掲げ、まちづくりを進める。
- 「健幸都市こうし」実現に向け、「市民の心と体の健康」、「地域の健康」及び「行政の健康」を柱に取り組む。

ウエルネスシティこうしの設立

- 産学官等が連携し、市民の健康増進と併せて将来的な医療費削減、地域版ヘルスケア産業の育成環境整備を目的に 2015 年に設立。
- 公的保険外のサービスを活用したセルフメディケーションを推進し、事業前後に数字の変化を見せるなど、企業等のノウハウを活用しながら、市民が自ら健康や運動に関して「気づき」、「行動し」、「継続する」ことを支援している。

交付金を活用した事業支援

市民と地域産業の共創が生み出すウエルビーイングなまちづくり事業

令和4～6年地方創生推進事業交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）

令和4年度

- ◇ UDeースポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行うことを目的とする。
- ◇ 楽しみながら認知機能の検査や認知機能の改善ができる検査ツールを開発。

令和5年度

- ◇ e スポーツを活用した認知機能測定デジタル化およびデータ利活用実証業務デジタル化による効率的な測定システムの構築と実装を行い、データの二次利用について検討
- ◇ e スポーツでの新たな認知機能改善と見守り業務
自宅等でもeスポーツを楽しむことで、認知機能低下の早期発見や維持、さらには遠隔地に居住のご家族とのコミュニケーションや見守りが行える機能を構築した。

令和6年度

- タブレット版 UDe-スポーツ開発と見守り業務実証。

UDe-スポーツ推進協議会について

1. UDe-スポーツ推進協議会の設立目的等

【目的（会則第3条）】

高齢者や障がい者などを対象とした e-スポーツに関する活動を行い、誰もが参加できるユニバーサルデザインな社会の実現に寄与する

【事業（会則第4条）】

- 高齢者や障がい者などを対象とした e-スポーツの普及、啓発のための事業
- 高齢者や障がい者などを対象とした交流促進のための交流会開催事業
- その他、会の目的達成に必要な事業

【設立】

令和4年4月1日

【会員】

Kura-Lab 株式会社、株式会社ハッピーブレイン、社会福祉法人合志市社会福祉協議会、社会福祉法人菊陽町社会福祉協議会、一般社団法人 UDe-スポーツ協会、菊池市、合志市、大津市、菊陽町

2. これまでの取り組み

目標とこれまでの取組

- 高齢者の認知症予防、障がいのある人の社会参画、就労支援、UDe-スポーツの普及啓発を担う人材育成に向けて関係機関と連携し、多くの市民に UDe-スポーツの楽しさや効果を実感してもらう→高齢者サロン等における体験会・イベント交流事業
- この取り組みの中で、認知機能測定やアンケートを行い、参加者自身の気づきや行動変容を促すとともに、人材育成を通じて職場や地域での主体的な活動につなげる→人材育成事業
- 重度障がい者であっても、UDe-スポーツをきっかけとして社会とのつながりを実感し、就労へのチャレンジを後押しする→重度障がい者の自立支援
- 市ホームページやメディア等を通じて、UDe-スポーツの取組が一人でも多くの市民に広まり・理解が進むように周知活動に努める。

3. 事業内容

① 高齢者サロン等における UDe-スポーツの実施

【目的】

UDe-スポーツの普及を目的とした体験会（オンライン対戦含む）を実施

【内容】

1 回当たり 3 時間程度（準備、片付け含む）

職員 2 名前後の体制で実施

【経費】

1 回あたり約 3～4 万円程度（変動あり）

【備考】

事業実施期間中に、アンケート等を実施し、注意・認知機能全体の維持に一定の有効性が見られた

参加者から得たデータについては、収集・分析し、新たな開拓先への説明時に活用する

② 各施設における人材育成

【目的】

各施設等における自走化を目的として、高齢者サロンの代表者や福祉施設の職員等に対し、UDe-スポーツの操作方法等の指導を通じ、効果や楽しさを経験して頂きながら、自発的な普及につなげる

【内容】

- これまでボランティア人材育成事業を受講した者のフォローアップ
- 高齢者サロン代表者等に対する人材育成

1 回あたり 3 時間程度（準備、片付け含む）

職員 2 名体制で実施

③ 重度障がい者の自立支援

【目的】

重度障がい者の社会との関わり、就労のきっかけづくり

【内容】

自宅や特別支援学校、障がい者就労支援施設等において、UDe-スポーツの体験をきっかけとした外部との関わりづくり、さらに、パソコンデータ入力による就労に必要な技能習得にもつなげる。

1 回あたり 3 時間程度（準備、片付け含む）

職員 2 名体制で実施

【備考】

対象者は在勤の重度障がい者を想定しているが、障がい者就労支援施設などと連携し、本人や家族等との面談を踏まえ、決定する

④ 将来的に目指す姿

本協議会の目的を達成するため、補助金に依存せずに、いかに現在の取組を継続（自走化）していくか。その際、契約者（機材購入、毎月利用料支払い）と人材（現場の接続・操作等）の確保が必要。

地域の状況に応じた継続体制の構築を目指し、契約者の候補への働きかけ及び連携した体験会等の開催に引き続き取り組む。

《所 感》 まだそれほど高齢化率の高くない合志市が、先進的にフレイル予防と認知症予防に取り組まれていることに感動しました。これまでの介護予防アプローチでは届きにくかった男性にも e-スポーツは受け入れやすく、フレイル予防・認知症予防につながっていくことに大きな期待をしています。興味深いネーミング、筋活教室や骨活教室など教室名にも工夫されていました。

また、重度障がい者の方が、UDe-スポーツの体験をきっかけにして自立支援・就労につながっていることをお聞きし、大変感動いたしました。

介護用品も地域全体で進め、持続していくための仕組みが重要だと思いました。そのためには、地域の中で活動しているサークルの掘り起こしや、多様な業種の誘致や広域連携、人材育成等々を民間と連携していくことを考えて小野市においても高齢者や障がい者だけでなく、誰もが参加できるユニバーサルデザインな社会を実現することが大事だと思いました。



【第3日】

福岡県福岡市

人口 1,671,893 人 面積 343.47 Km²

《視察項目》

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

《視察内容》

福岡市は、都心部を中心に海や山に囲まれ、コンパクトな市街地を形成、都市と農業が近い。

[市政に対する意識調査] (令和6年度)

● 福岡市は住みやすいと思いますか？

「住みやすい」と答えた人 97.4%

満足度 満足+どちらかといえば満足

新鮮でおいしい食べ物の豊富さ 90.7%

買い物の便利さ 87.9%

自然環境の豊かさ 85.3%

医療機関の充実 81.9%

自然災害の少なさ 80.4%

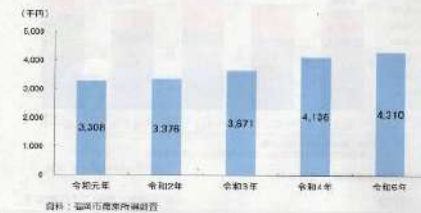
福岡市の農業の現状と施策



（１）農産物産地マップ



(1) 専業農家の一戸あたりの平均農業所得



區分	再販数量	第1種業務用紙	第2種業務用紙
令和5年平均商販数量	4,310	2,487	323

(附註)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ・福岡市における認定農業者の農業所得目標 | 4,400千円程度以上 |
| ・福岡市農林業振興計画における農業所得目標 | 3,800千円（令和7年所得目標値） |

福岡市内で農業経営を検討している方を対象に、農業者からの指導を受け、実際に畑で野菜の栽培を行いながら、栽培技術などについて学ぶことができる。次の４つのコースから選択

- (1) 基礎研修 市民農園型

市民農園を利用し、農家指導のもと農業を体験
(農業未経験者向け)

- (2) 基礎研修 実践研修型 平日コース

野菜栽培の実践及び講義により、土づくり、農薬や農機具の使用
方法、直売所出荷方法など農業全般について学ぶ

- (3) 基礎研修 実践研修型 休日コース

(2)と同様の内容

(4) インターンシップ

希望の品目を栽培している農家のもと直接指導を受ける

(これまでに農業経験があるなど就農に向けて希望の品目のある方向け)

【福岡市女性未来農業サポーター】

女性の視点を活かして農業経営に積極的に参画し、女性躍進の活動に精力的に取り組まれている福岡市が委託した女性農業者の方たちで、これまでに福岡県女性農村アドバイザーを務められた方など。サポーターの皆さんは、市の女性農業者支援施策に対する助言や農業研修の受入れなどさまざまな活動をしている。

【女性農業者育成事業】

農業経営に積極的に取り組んでおられる市内の女性経営者（女性未来農業サポーター等）のもとで、農業技術や経営等に関することなどを直接学ぶことのできるインターンシップを実施。

【その他】

新規就農スタートアップ事業、農業ヘルパーの紹介・募集など

《所 感》

市民の満足度 90.7%の新鮮でおいしい食べ物の豊富さを維持するためには専業農家の所得を増やし、稼げる農業を目指していくことが大切です。一方、都市ならではの問題があるそうです。土地が高騰するのではないかな等の理由から、耕作放棄地の集約化が難しく、大規模な農地が得られないそうです。

都市でも地方でも担い手育成に苦慮している現状の中、福岡市女性未来農業サポーターの活躍がアグリチャレンジや女性農業者育成事業に貢献されています。小野市においてもこのようなサポーターの取組を構築できたらもっと女性農業者や若者が農業に関心を持っていただけるのではないかと思います。



(本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。)

令和 8 年 7 月 31 日

小野市議会議長 喜始真吾 様

民生地域常任委員会
河 島 三 奈

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 1 5 日（水）～令和 8 年 7 月 1 7 日（金）

2 視察メンバー

掘井ひさ代（委員長） 平田真実（副委員長）
前田昌宏 宮脇健一 村本洋子 河島三奈 高坂純子 河島信行
随行 松原（事務局）

3 視察先及び調査内容・及び所感

- （1） 広島県廿日市市（人口：約 11 万 4 千人、面積：約 489K m²）
ひきこもりステーション「はつステ」について
- （2） 熊本県合志市（人口：約 6 万 5 千人、面積：約 53K m²）
「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について
- （3） 福岡県福岡市（人口：約 167 万 2 千人、面積：約 343K m²）
農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

4 調査結果

【第1日】

広島県廿日市市

人口 約 11 万 4 千人 面積 約 489K m²

≪視察項目≫

はつかいちひきこもりステーション「はつステ」について

≪視察内容≫

座学にて、担当者から説明を受けた

(廿日市市 健康福祉部 地域共生社会推進室 社会福祉協議会)

＜視察目的＞

ひきこもり状態にある本人やその家族への支援体制、相談支援の実施状況、多機関連携の仕組みについて調査し、小野市における支援施策の充実に資すること

① 廿日市市の特性

市政は昭和 63 年施行、平成 15 年、17 年時に合併、現在の形になる

転入超過率は広島県内第 2 位で、観光客数が増加の傾向にある

昭和 50 年代から 80 年代の団地造成が盛んだったころの影響が大きく、8050 問題が顕著になっている

② ひきこもりステーション「はつステ」について

- | | | |
|----|------|--|
| 1) | 委託先 | 廿日市市社会福祉協議会 |
| 2) | 相談内容 | 本人、家族、関係者などからのひきこもりに関する相談 |
| 3) | 職員配置 | 非常勤職員 2 名 |
| 4) | 受付時間 | 平日のみ 9:00~17:00 |
| 5) | 所在地 | 山崎本社 みんなのあいプラザ 3 階 5 番窓口 |
| 6) | 相談形態 | 来所、電話、メール、訪問 |
| 7) | 事業内容 | ◎相談支援、居場所づくり、連絡協議会・ネットワークづくり、
○当事者会・家族会の開催、住民向け講演会・研修会の開催
実態把握調査 |

※ ◎はひきこもりステーション事業の必須項目、○は任意項目（厚労省 HP より）

③ 予算措置

令和 8 年度予算 事業費 10,405 千円（運營業務委託料）

財源 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 (1/2 補助)

※基本額 重層的支援体制整備事業を実施している場合の 7,500 千円

※加算額 任意事業 3 つの基準額@1,000 千円二つと@500 千円

④ 「はっステ」の機能と特筆すべき内容

1) 相談支援→来所、訪問、電話、メール

※タイムリーな対応をこころがけているため SNS 相談等は積極的に推進していない

※個人的に信頼関係を築けた人には、ライン等を使用

2) 地域連携→連絡協議会、ネットワークづくり、民間団体との連携

※居場所に来た方に、就労（事業所 B 的作業）をしてもらう

3) 支援プログラム→当事者の居場所、当事者の家族の家族会、専門家の個別相談

※専門家は臨床心理士

4) 調査・普及啓発→実態把握調査、住民向け講演会

※市内ケアマネジャーに対するアンケート調査を予定

※令和 6・7 年度はひきこもりへの理解を深める講座の開催

(内容は DVD 鑑賞で、兵庫県が作成したもの)

※令和 8 年度は講演会を予定

⑤ 質疑・応答による事業の実情と課題及び今後の取り組み

Q これまでの支援を通じて一番必要な支援は何か

A いかに信頼関係を築けるか、また継続できるか

Q 支援が長期化したり、関係が途切れそうなケースへの対応は

A すぐに失敗と判断しない、あきらめない、家族とのつながりを切らさない
期間を開けて、連絡がきたこともある

Q 「ばそあ基地」はどのような支援をされているか

A 主に不登校の若年層への支援（居場所）「こども相談室」と連携していて、ここから「はっステ」につなげていく

※上記の取り組みがあるので、若年層はひきこもり支援へつながりやすい、
反面高齢者（8050 問題の当事者など）の層はつながりにくい

Q 支援の評価はどのようにしているか

A 厚生労働省の基準を細分化（広島県三原市の例を取り入れ個人評価をしている）

Q ケース会議等でのケアマネさんと職員サイドとのスピード感の感覚の差異による
意見の違いはあるか、その場合はどのように対処されているのか

A 確かにケアマネさんたちとの支援についてのスピード感が合わないところはただ
あるが、何年もまえから会議をもっていて関係は構築されている。個別ケースに
ついて詳細を協議し、障害に合わせてプランを考えている

Q 今後の取り組みは

A 今年度からは、早期発見のため SNS などアウトリーチに積極的に取り組んでい
く予定。アプローチは食料支援からはじめる。重層的視点からの地域づくりを目
指していく

※説明上わかりやすい支援の成功例が、親御さんが亡くなった後からの食糧支
援がきっかけであった

《所感》

小野市は、厚生労働省や兵庫県が示す「仕事や学校に行かず、家族以外との交流をほとんどせずに6か月以上とどまり続けている状態」というひきこもりの定義にそって相談事業を実施しており、月に1回の公認心理士・保健師・社会福祉士の専門家によるひきこもり相談を開始したところである。

全国的に高齢化が進み、いわゆる8050問題が増加している。小野市においてもそれは例外ではなく、市民やケアマネージャーの方に話を聞くと、早急に対処しなくてはならないと判断されるケースも多くあるように感じる。

今回の視察の際に、現場（施設やケアマネの方等）と行政（役所の担当者等）のスピード感に対する差による意見の差異を感じるかと質問したところ、差は確かにあるが、ケアマネの方の意見を大切に、障害に合わせた対応をしているとのことだった。

この問題はどの市町村でも起こっており、重要な点でもあると認識しているが、どの視点・観点からも最適解をとれるように、コミュニケーションを円滑に行い、信頼関係を構築することが何よりも重要であると感じた。

廿日市市の支援は、福祉面だけではなく、教育、民間、様々な関係団体が併走して行っている点が素晴らしい。また委託先の社会福祉協議会の中心的担当者がキャリアも長く、支援に対しての情熱をもって取り組み、支援対象者と関係を築けない時期であっても決してあきらめず、長期的に寄り添い続ける姿勢を持ち続けられていることも素晴らしく、廿日市市はなんと安心できるまちであろうかと思った。また、担当者は、職員や相談を受ける側の者のことも、しっかりケアできていると感じた。最後に様々な市が交流を持ち、「仕組み」を情報交換できる場が増えたら、より支援につなげられるのではないかと感じた。



※議場にて



※座学の様子

【第2日】

熊本県合志市

人口 6万5千人 面積 約 53 Km²

《視察項目》

フレイル・認知症予防の取り組みについて

《視察内容》

座学にて担当者から説明を受ける（資料3部）

- 1・「ウエルネスシティこうし」について
合志市市長公室秘書政策課
- 2・「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について
～地域包括支援センターの取組～
健康福祉部高齢者支援課 地域包括支援センター班
- 3・UDeースポーツ推進協議会について

＜視察目的＞

高齢化が全国的に進む中で、「健やかな幸福」と書いて「健幸都市」と宣言されている先進的なフレイル、認知症の予防対策と新たな Ude スポーツを市の施策として取り入れた取り組みを学び、小野市の高齢者の健康と福祉の施策の向上につなげることを目的とする

① 「健幸都市こうし」のコンセプト

総合計画第2次基本構想（2016年度～2023年度）「元気・活力・創造のまち」の実現には、市民が健康であるとともに、市の行財政も健康でなくてはならない。

あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し、「健幸都市こうし」（2020年度宣言）を掲げ、街づくりを進める

1) 市民の心と体の健康

健診受診率の向上や手軽に取り組める健康づくりを広めることにより、市民が障害にわたって健康で健やかに生活を送ることができるように「健康寿命の延伸」を目指す

2) 地域の健康、行財政の健康

「包括的連携協定」等による産学官民連携を活用し、市内全域で産業活動が活発に行われ、賑わいを呼び、市民がいきいきと張らくことのできる「稼げる市」をつくることを目指す

＜特筆すべき内容＞

道路インフラの充実に注力している。IC 中心の街づくりをし、開発を促進

→多様な企業を育てていく、中長期的な計画

※空き家対策として「こうし未来研究所」を設立、企業誘致に力をいれている

② ウェルネスシティこうしの設立

産学官等が連携して、市民の健康増進、将来的な医療費の削減、地域版ヘルスケア産業の育成環境整備を目的にしたもの。

公的保険外のサービスを活用したセルフメディケーションを推進し、事業前後に数字の変化を見せるなど企業等のノウハウを活用しながら市民が自ら健康や運動に関して「気づき」「行動し」「継続する」ことを支援している。

※令和8年6月現在で、正会員は10団体

③ 交付金を活用した事業支援

令和4年～6年地方創生推進事業交付金を活用

1) 令和4年度(1年目)

UDe スポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行うことを目的とする。楽しみながら認知機能の検査や改善ができる検査ツールを開発

2) 令和5年度(2年目)

E スポーツを活用した認知機能測定デジタル化及びデータ利活用実証業務デジタル化による効率的な測定システムの構築と実装を行い、データの二次利用について検討。また自宅等でもeスポーツを楽しむことで、認知機能の低下の早期発見や維持、更には遠隔地に居住している家族等とのコミュニケーションや見守りが行える機能を構築。

※タブレット版を開発

※得られるパーソナルヘルスレコードを情報として収集し、他の施策へ利用する

→課題としては、個人情報等の管理等があげられる

事業内容

③ 重度障がい者の自立支援

【目的】
重度障がい者の社会との関わり、能力のきかけづくり

【内容】
自宅や特別支援学校、障がい者就労支援施設等において、UDe-スポーツの体験をきっかけとした外部との関わりづくり。さらに、パソコンデータ入力による就労に必要な技能習得にもつなげる。
・1回あたり3時間程度(準備、片付け含む)
・施設2名体制で実施

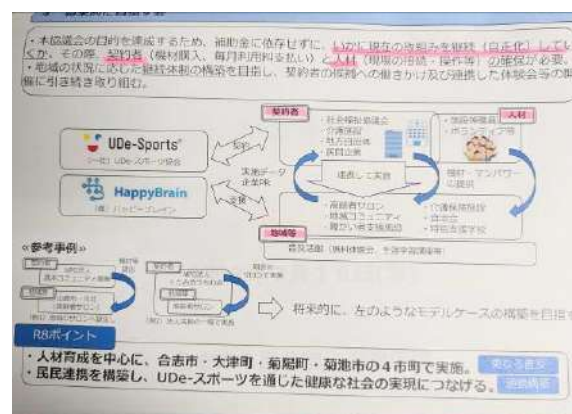
【備考】
・対象者は在宅の重度障がい者を想定しているが、障がい者就労支援施設などと連携し、本人や家族等との面談を踏まえ、決定する

【実施内容】

対象者	障がいの種類等	実施回数
A児	肢体不自由	2
B児	知的障害	1
C児	ウェルドレス・ボクシング	1
D児	筋力トレーニング	6

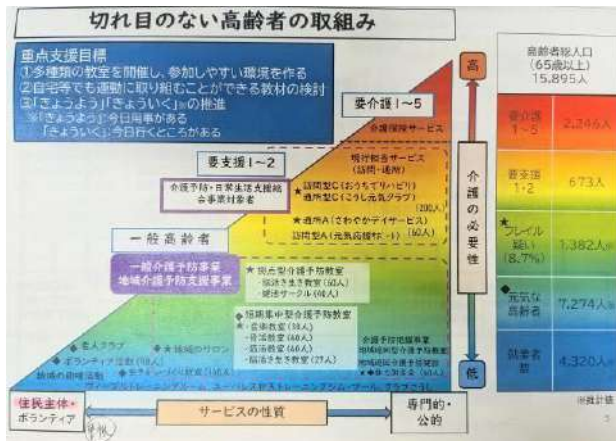
在宅での実施状況

※事業内容

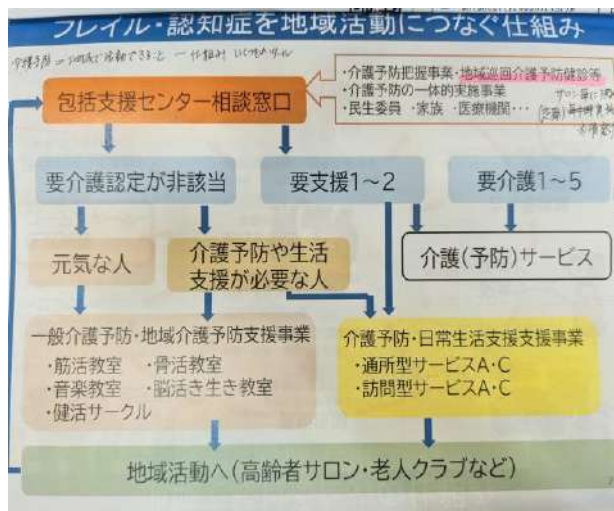


※将来的に目指す姿

④ 「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について ～地域包括支援センターの取組～



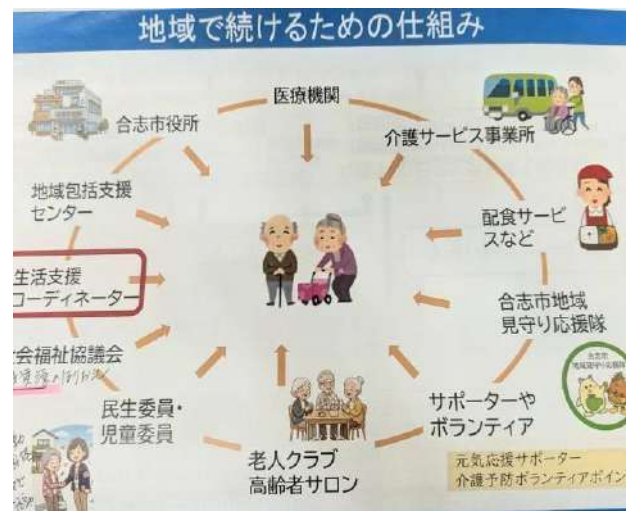
※取組を表であらわすと



※地域活動をつなぐ仕組みを表であらわすと



※令和8年度合志市介護予防事業



※地域で続けるための仕組み

生活支援コーディネーターの役割は
「市域資源の掘り起こし」

地域で独自で活動している団体や、事業所内の活動の活動をさす

《所 感》

合志市の「行政も人も健康」というコンセプトには納得させられる。特に合志市は今、市として開発がすすめられ、近隣の菊陽町の TSMC 関連の大きな変化を受け、波に乗っている状況なのだと理解した。人口が増える一方で、長い将来を鑑み、膨らんでいく福祉費、とりわけ医療費を抑制するための取組は、素晴らしいものとする。特に e スポーツという一見若者しか理解できないのではないかと考える分野の高齢者への取り組みは、目からうろこの政策であると思う。全年齢対応可能というところで継続性もあり、大会を開催していることからみてもイベントとして観光分野での将来性もあると思う。説明を受けた際も、担当者、議員、など自信をもって対応していただいていたことから受ける印象は、市長の方針に真摯に向き合い、協力、研鑽していかうとの姿勢を感じられた。

【第3日】

福岡県福岡市

人口 167 万 2 千人 面積 約 343 K m²

《視察項目》

農の応援アグリチャレンジ・女性農業者育成支援事業について

＜視察目的＞

農業事業者の担い手の不足が全国的にも問題になっている、小野市でも同様の問題があると考えている。福岡市の取組を学び、また特に女性事業者に対する支援の取組も充実している施策を学び、小野市に取り入れることができるのか、考えるために視察する。

《視察内容》

座学にて担当者から説明を受ける

① 福岡市の農業の特色

- ・ 市内 1/3 が農林
- ・ 都心部を中心に海、山に囲まれコンパクトな市街地を形成し、都市と農業が近い
- ・ 大消費地が近いので、足の速い時期ものが多い、(イチゴなど)
- ・ 「食」を求めて人が集まる→観光地として有益、市民にも人気
- ・ 個人経営が多い
- ・ 農業従事者数、農家戸数の減少が顕著
- ・ 現在の主力は 70 歳代→次世代への不安
- ・ 新規就農者は年間 20 名ほど
- ・ 農産物として比較的安定しているのが花
- ・ 昨今の夏の暑さで葉物野菜は苦戦→暑さ対策が急務
- ・ 多産地との差別化、市内産との競争
- ・ 畜産ではエサ代の高騰
- ・ 稲作機械の共同利用を促進→高額な機械を導入更新の難しさ
- ・ 生産額は令和の平均で 60 億ほど（鳥インフルエンザや、コメの高騰等で上下あり）
- ・ 市長支持で農収入の向上に取り組む
- ・ 今後の課題は所得の向上、持続的・都市型を整備→生産性の向上→スマート農業

② アグリチャレンジ事業

- ・ 福岡市内で農業経営を検討している方を対象に、農業者からの指導を受け実際に畑で野菜の栽培を行いながら、栽培技術などについて学ぶことができる研修事業
- ＜研修の概要＞

4つのコース

- 1) 基礎研修（市民農園型）市民農園を利用、農家市道のもと農業を体験

2) 基礎研修（実践研修型）平日コース

野菜栽培の実践及び広義により、土づくり、農薬農機

具の使用方法、直売所出荷方法などの実践

3) 基礎研修（実践研修型）休日コース

4) インターンシップ 希望の品目を栽培している農家の元で直接指導を受ける

○参加者の主な感想

- ・就農に向けた具体的なイメージが持てた
- ・一緒に受講した人たちと交流が続いている
- ・農業を仕事にすることができた
- ・研修によって失敗の原因がわかった
- ・やりがいや達成感、喜びを味わうことができた

○受講料は各コース 1 万円

③ 女性農業者育成事業

- ・農業経営に積極的に取り組んでおられる市内の女性農業者（女性未来農業サポーター等）のもとで農業技術や経営等に関することを直接学ぶことができるインターンシップ制度
- ・「意欲のある方」を対象にするので、面接なども実施している
- ・受け入れ農家には①あたり 2000 千円ほどの謝礼

○参加者の主な感想

- ・女性ならではの農業の工夫、効率化を学べた
- ・多品目管理のスケジュール管理等勉強になった
- ・食にかかわる仕事をしていたが、農業のことは無知だった。現場で見聞きすることは驚きがたくさんあり、楽しく学べた

④ インターンシップ等の課題

- ・農業は天候に左右される事柄が多く、なかなか予定通りには進まない
- ・受け入れ農家にとって、負担になる場合もある

《所 感》

「女性農業者支援」ということで、なぜ「女性」を別枠にしたのか、と思っていたが、すでに実績のある女性農業者のところへインターンシップを行うということで、納得がいった。過去、違う分野で視察に行ったところでもあったが、まず第一人者がいて、行政がそこへ支援を足す、という取組がうまく事業がまわる形なのではと思い至る。農業という自然を相手にしているため、予定とおりに進むことはなかなか困難である中で、研修生の方々の面倒をみながら仕事をする期間は、農家の方は負担に感じることも多いだろうと思う。しかしながら、それを継続できているということは、学ぶ方々の熱心さや、受け入れ農家の献身さが多大にあると思う。またそれを支えている行政を信頼しているからなのではないかと感じた。

小野市では、一定の支援や施策において、期限を決めて実施し、PDCAを繰り返しながら、継続・廃止を決めていくことが多いなかで、福岡市の「農業者を目指すものへの支援」は継続が基本前提であり、その中でやり方を日々研究模索し、永劫のPDCAを繰り返していくのだなと感じた。担当者も若い職員で、自らも一緒に体験しながら改善点を模索し、実行していることを聞いた。福岡市の農業の特色である個人経営の形態を大切にしながら、農業としての収益向上を助ける仕組みを構築できていることは大変すばらしい施策であると思う。また、長く施策を続けていく中でできた交流の輪や助け合いの心は、大きな価値があることだと思う。福岡市のような大都市がそのような「小さな暖かさ」を持っていることに羨望する。小野市においても近年では、新しい組織や農業をされる方々が出てきたように感じるが、将来的に福岡市のような取組が、官民連携で長く進めていけたら、より「選ばれるまち」になれるのではないかと考えた。

(本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。)

令和 8 年 7 月 31 日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

民生地域常任委員会
高坂 純子

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会 行政視察の結果について、
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 15 日（水）～令和 8 年 7 月 17 日（金）

◎堀井ひさ代 ○平田真実

・前田昌宏・宮脇健一・村本洋子・河島三奈・高坂純子・河島信行

3 視察先及び調査内容

（1）広島県廿日市市

・廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつすて」について

（2）熊本県合志市

・「健康都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について

（3）福岡県福岡市

・農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

4 調査結果

【第 1 日】

- ・広島県廿日市市（人口：115,451 人 面積：489.49 km² 議員数：27 名（女性議員 7 名）
転入超過者数は 11 年連続増 けん玉発祥の地 宮島が世界遺産に登録されて 30 年
高齢化率：31.9% S50 年からベッドタウン化の為「8050 問題」が課題

《視察項目》

- ・廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつすて」について
ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携、

《視察内容》

- 健康福祉部 地域共生社会推進室 室長（保健師）
係長（保健師）
- 廿日市社会福祉協議会生活支援課課長兼権利擁護係長訪問介護センター
生活支援係 係長（はつかいち生活支援センター）

☆はつかいちひきこもり支援ステーション「はつステ」☆

※廿日市市新宮 1 - 13 - 1 山崎本社みんなのあいプラザ内

- ・令和 6 年 7 月 1 日設立（事業開始は令和 6 年 4 月 1 日から）
- ・社会福祉法人廿日市社会福祉協議会が委託運営
- ・職員数 2 名で引きこもり当事者及びその家族からの相談対応と支援、家族会の運営、個別相談室の運営、当事者の居場所運営

・令和 8 年度予算

事業費：10,405 千円（運營業務委託料）

財源：生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

補助上限額 10,000 千円

〔基本額 7,500 千円（重層的支援体制整備事業）

＋加算 1,000 千円（当事者会・家族会開催）事業）

＋加算 1,000 千円（住民向け講演会・研修会開催事業）

＋加算 500 千円（実態把握調査事業〕 1/2 補助



◎厚生労働省が定めるひきこもりの定義：様々な要因として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則 6 か月以上にわたって概家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしても良い）

○はつステの機能

- ① 相談支援（来所、訪問、電話、メール※SNS を使った相談はまだ関係性のできた人にはラインでのやり取り）

・引きこもり相談の推移

	2024 年度	2025 年度
新規相談件数	49	58
当事者	8	16
家族（知人含む）	23	25
関係機関	18	17
うち電話相談	25	19
うちメール相談	2	7
家族会参加者	24	52

※2024 年の個別相談会は 2024 年 9 月から開催の為年 4 回。2025 年は年 5 回

※2024 年の家族会は 2024 年 9 月から開催の為年 4 回。2025 年は年 6 回

- ・引きこもり相談の内訳（男性 65% 女性 27% その他 8%）

②居場所支援

毎週月曜日（13：00～16：00）

読書、ゲームなど自由に過ごす、軽作業、卓球バトミントンなどの運動

③個別相談会

奇数月 第4木曜日（17：30～19：30）

引きこもり当事者とその家族を対象に公認心理士による専門相談を1回50分（要予約）

④家族会

偶数月 第2土曜日（10：00～12：00）

引きこもり当事者の家族の交流、ひきこもり支援に関する情報提供や知識取得

☆長期間自宅中心生活の支援事例の中から☆

- ・ ひきこもり⇒「充電期間」と呼ぶ
- ・ 2名体制で定期訪問、約6か月間の訪問を継続、無理に外出を促さない、本人のペースを尊重する、本人が話せる時を待つ、小さな変化を見逃さないよう関係構築
- ・ 家族とも継続的に関わる、長期的な視点で支援を継続、本人の意思決定を支える

《所 感》

支援者が人生を変えたのではなく、本人が人生を変える決断を支えた。

この言葉がとても印象的だった。支援事例を丁寧にご説明頂いたが、とにかく係長の丁寧で粘り強く、本人の意思を尊重しながら支援を継続されたお話に胸を打たれた。

本人に寄り添い、あくまでも本人の変化を支える。周囲の家族との信頼関係も大事になるし、本人との関わりの加減の調節も難しいと思うが、見事に一步を踏み出すまでのご苦労は計り知れない。ほんの少しの働きでも、何かしらの対価を得る事が、外へ出るきっかけになるとも聞いた。難しい就労ではなく、体験的で、かつ報酬に繋がるものを考える必要があると感じた。不登校からひきこもりへと繋がっていくとも言われていたが、早い時期からのかかわりが大事になっていくと思う。その辺りは教育委員会との連携を密に行うことも大切と感じた。社会福祉協議会の中にある一つ一つの担当部署の熱量であったり、人材であったり、地域からの期待度だったり、多様な分野を受け持つ社会福祉協議会のあり方について、もう一度考える良い機会にもなった視察だった。



【第2日】

熊本県合志市 人口：65,160人 面積：53.19km² 議員数：19名（女性議員4名）

半導体受託製造世界最大手 TSMC の工場がある菊陽町と隣接しており熊本市のベッドタウンであり人口も増加傾向にある。子育て世代にも優しいまち。

《視察項目》

- ・「健康都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防について
- e スポーツ、脳ケアルームなど志市独自の認知症予防の取り組み

《視察内容》

- 市長公室秘書政策課 課長 課長補佐
- 社会福祉部部长：高齢者支援課課長（包括支援センター班）課長補佐
- 合志市議会 健康福祉常任委員長 議員

（1）認知症予防に e スポーツを取り入れた経緯

- ・【**健幸都市こうし**】実現に向け

「市民の心と体の健康」「地域の健康」「行財政の健康」を柱に取り組む

- ・2015年『ウェルネスシティこうし』設立
- ・交付金を活用した事業支援

市民と地域産業の共創が生み出すウェルビーングなまちづくり事業

※令和4～6年地方創生推進事業交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）

- ・UDe-スポーツを活用し、高齢者の認知機能低下予備軍の早期発見を行うことを目的
- 楽しみながら認知機能の検査や認知機能の改善ができる検査ツールを開発

（2）UDe-スポーツ推進協議会について

- ・高齢者や障がい者などを対象とした e-スポーツに関する活動を行い、誰もが参加できるユニバーサルデザインな社会の実現に寄与する目的で、令和4年4月1日設立
- ・会員にはゲーム開発会社をはじめ、合志市、菊陽町社会福祉協議会、菊池市、合志市、大津町、菊陽町等9者

（3）事業内容（高齢者サロン等）

- ・UDe-スポーツの普及を目的とした体験会（オンライン対戦含む）
- ・1回あたり3時間程度（準備、片付け含む（職員2名前後））
- ・交付金で初期にゲーム機等購入等おこなっているので1回あたり約3～4万

・実施内訳

令和7年	実施回数	延べ参加者
合志市	6	83
大津市	9	77
菊陽町	9	209
菊池市	8	135
計	32	504

- ・施設における人材育成（認知機能測定。参加者行動変容の促し）
- ・重度障がい者の自立支援（社会とのつながり、就労）
- ・UDe-スポーツの更なる普及促進

※事業実施期間中にアンケート等を実施し、注意、認知機能全体の維持に一定の有効性が見られた

（４）課題

- ・補助金に依存せず、いかに現在の取り組みを継続（自走化）していくか。
- ・契約者（機材購入、毎月利用料支払い）と人材（現場の接続・操作等）の確保。
- ・地域の状況に応じた継続体制の構築を目指し、契約者の候補への働きかけ及び連携した体験会等の開催に引き続き取り組む。

《所 感》

健康福祉常任委員長が UDe-の開発業者の（株）ハッピーブレインとも親しいとの事で詳細にご説明くださった。また議長も公務終了後から最後まで一緒に勉強します！と在席された。「健幸都市こうし」の名の通り議会も元気である。

高齢者が UDe-スポーツをどのように使っているのか最後に VTR で拝見した。

●記憶検査＝赤、白、緑の玉が2秒おきに画面が変わるので叩きながら記憶をたどる

●判断力＝赤、白、緑の玉と一緒に出てくる見本の絵と同じものを見つけ、ボタンで叩いてクリアしていく。

●注意力検査＝20の問題を不一致課題20文の正解数、終了までの経過時間検査する検査とはまた違って「かけっこ」「達磨落とし」等、昔懐かしい遊びをゲームに取り込んであり赤、青、緑のボタンを叩いたり、足で踏んだりと皆さんがとても楽しそうだった。足で踏むことで体力が付いたり、数人で競争できるので交流やコミュニケーションも生まれ、利用者は広がっていくと考える。

議長が言われた「きょういく＝今日行く」はこのサロンがあるということに繋がり、フレイル予防と認知予防にぴったりだと思う。

半導体の技術革新に向けて「くまもとサイエンスパーク」の中核エリアとなる合志市。九州横断道のインターチェンジが3つも予定されているとも伺った。

経済的に潤うことも予想される中、最新の UDe-スポーツを取り入れたフレイル予防、認知症予防で「健幸都市こうし」は益々全国へ発信されると感じた視察だった。

UDe-スポーツについては、今後のデーター等が発信されるようなので注視して、小野市にも取り入れられるのか検討も必要と考える。



【第3日】

・福岡県福岡市（人口：1,671,893人 面積：343.47km² 議員数62名（女性議員14名）

人口増加数、人口増加率ともに政令都市の中で首位。国家戦略特別区域

第3次産業が9割を占める。福岡は商人の町、博多は武家の町と言われる

《視察項目》

・農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について

農業の担い手確保育成のため、自営就農を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取り組み

《視察内容》

○農林水産局：総務農林部農業政策課 課長

担い手育成係長

担い手育成係

○福岡市の農業の現状

（1）農業者

- ・集落営農は少なく個人経営農家が殆ど（農家戸数2,580戸：農業従事者2,797人）
- ・個人経営が多いのでグループ化を進めている
- ・農家の経営主の主力が70代。80代になると一斉に辞めるのではと危惧している
- ・新規農業者（令和7年度20人）

（2）農地

- ・市内の農地面積（2,316ha）耕作放棄地面積321ha：農業の推進を行っている

（3）農産物

- ・米は全域で作っている。春菊は西側。いちごも勿論だが野菜全般

※地産地消で学校給食へ供給

- ・喫緊の課題は高温対策！！

※畜産農家もあり

（4）農業所得

- ・専業農家一戸平均：4,310千円

○技術習得に関する支援

(1) アグリチャレンジ

福岡市内で農業経営を検討している方対象に、農業者からの指導を受け実際に畑で野菜の栽培を行いながら、栽培技術などについて学ぶことができる。

①基礎研修（市民農園型※農業未経験者）（実践研修型：平日コース・休日コース）

②インターンシップ（農家のもとで直接指導を受ける）

(2) 福岡県農業大学校（受験料、入学金、授業料無料※教材費、研修量は別途負担）

(3) 農作業ヘルパー（農家で働きたい人方と人手を求める農家をマッチング）



○補助金等に関する支援

(1) 新規就農者育成総合対策（国の事業）

(2) 新規就農スタートアップ支援事業（市の事業）

(3) 融資金

○福岡市女性未来農業サポーター

・女性の視点を活かして農業経営に積極的に参画し、女性活躍推進の活動に精力的に取り組まれている福岡市が委嘱した女性農業者の方。福岡市の女性農業支援施策に対する助言や農業研修の受け入れ等さまざまな活動をしている。

《所 感》

福岡市には JA が 2 つあり（JA 福岡市と JA 福岡市東部）JA と県市の農業委員会等で、今まで農業全般についてお願いしていたが、①知識の習得②資金の確保など新規農業者には大変な部分もあり、それならば、入口でしっかり学んでいただくということで「アグリチャレンジ」が始まったと聞いた。

大都市福岡の農業というとピンとこなかったが「あまおう」をはじめ、野菜全般は福岡の台所を担っている。消費人口は増えているので、今後の農業にも期待できる。それには後継者の問題が一番大きいので先手施策を学ばせていただいた。地産地消の地元野菜を給食に。小規模農家が多いので大量生産でなくても、高級レストランで使われる貴重な野菜生産に取り組まれており、着眼点にも感心した。

温暖化の影響で作る作物の内容も変わってくるかもしれないが、新規就農者の増加とともに福岡の農業が益々発展することを期待した視察だった。

余談だが何処もイノシシ対策には頭を痛めておられることもわかった。

（本報告書の作成においては、視察先より提供いただいた資料及びHP等を参考とした。）

令和8年7月22日

小野市議会議長 喜始真吾 様

民生地域常任委員会
河 島 信 行

行政視察報告書

先般実施した常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和8年7月15日（水）～令和8年7月17日（金）

2 視察メンバー

委員長 掘井 ひさ代 副委員長 平田真実
委 員 前田昌宏 宮脇健一 村本洋子 河島三奈 高坂純子 河島信行

3 視察先及び調査内容

（1） 広島県廿日市市 市役所 令和8年7月15日（水）

【視察内容】

廿日市市ひきこもり支援ステーション「はつステ」について
ひきこもりに関する支援、相談、情報発信、関係機関との連携等、
ひきこもり支援ステーションの取り組みについて視察する。

（2） 熊本県合志市 市役所 令和8年7月16日（木）

【視察内容】

「健幸都市こうし」の実現に向けたフレイル予防と認知症予防についてEスポーツ、脳ケアルームなど、合志市独自の認知症予防の取り組みについて視察する。

（3） 福岡県福岡市 市役所 令和8年7月17日（金）

【視察内容】

農の応援事業・アグリチャレンジ事業・女性農業者育成事業について
農業の担い手確保・育成のため、自営就労を目指す方や農業に携わりたい方を対象とした研修事業などの取り組みについて視察する。

4 調査結果

【第1日目】 広島県廿日市市 市役所 令和8年7月15日（水）

（説明者等） 廿日市市議会 副議長

廿日市市 健康福祉部 地域共生社会推進室 室長 係長

廿日市市 社会福祉協議会 生活支援課 係長

《視察・調査項目》

- 1 事業費 10,405,000 円
- 2 財 源 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金を活用して
- 3 市の担当部局 廿日市市 健康福祉部 地域共生社会推進室（4人体制）
- 4 委託先 廿日市市 社会福祉協議会（2人体制）
- 5 受付時間 9：00 ～ 17：00 （土日祝休み）
- 6 相談形態 来所 電話 メール 訪問
- 7 事業内容
 - ・ひきこもり当事者及びその家族からの相談対応と支援
 - ・家族会の運営 ・個別相談会の運営 ・ひきこもり当事者の居場所運営

《所 感》

- 1 事業の成功の秘訣は、担当職員の熱意、粘り強い職務推進意欲が不可欠である。
- 2 ひきこもりは、長期化であるので、継続的な取り組みが大切である。
- 3 ひきこもり当事者の家族との連携も、効果がある。
- 4 担当職員に、専門的な知識も、必要である。
- 5 成功例の実践について、説明を受けた。
- 6 市当局と社会福祉協議会との連携がスムーズにしていることが素晴らしい。

【第2日目】 熊本県合志市 市役所 令和8年7月16日（木）

《視察・調査項目》

説明者等 合志市議会 議長 担当委員長
合志市健康福祉部長
高齢者支援課長 課長補佐
市長公室 秘書政策課長 課長補佐
議会事務局長

【地域包括支援センターの取組について説明を受ける】

- 1 ・高齢化率 24.5% ・介護認定率 18.3%
・高齢夫婦世帯率 12.0% ・高齢独居世帯率 9.0%

2 重点支援目標

- ① 多種類の教室の開催（参加がしやすい環境をつくる）
② 自宅等でも運動できる教材の検討
③ きょう用事がある。きょう行くところがある。

3 切れ目のない高齢者の活動の場をつくっている。

老人クラブ ボランティア活動 地域の趣味活動 生きがい教室 地域のサロン等

《所 感》

1 介護予防事業に力を注いでおられる。

活動場所の確保は、効果的な施策である。（以下、具体例）

- ・トレーニングルーム ・生涯学習主催講座の開設 ・生きがいづくり教室の開設
・シルバー人材センター ・筋活教室の開設 ・骨活教室 ・音楽教室
・脳活き生き教室 ・さわやかデイサービス（通所A）

【第3日目】 福岡県福岡市 市役所 令和8年7月17日（金）

《視察・調査項目》

説明者等 福岡市 農林水産局 総務農林部 農業政策課長
担い手育成係長 議会事務局 総務秘書課員

- 1 主要農産物は、野菜が主役（いちご等） ぶどう ばら 等。
- 2 農業従事者 70歳代が主力（個人経営の形態）。
ただし、従事者は減少傾向 兼業農家が多い。
耕作放棄地は50%（市内の）。
福岡市の西エリアが田園地帯。
農機具は高額で、農業経営は厳しい、農機具が壊れたら廃業傾向。
高温で、花栽培には不適である。
- 3 アグリチャレンジ事業（4つのコースから選択する）について
 - ① 基礎研修（市民農園型）
 - ② 基礎研修（実践研修型） 平日コース
 - ③ 基礎研修（実践研修型） 休日コース
 - ④ インターンシップ 以上、4つのコースを設定している。

（所 感）

- 1 福岡市は大都市なので、小野市とは農業環境を異にする。
- 2 福岡市の中心は、都市開発が進んでいる。
- 3 農地を貸さない風潮があり、借りにくいので、新規の農業者が育ちにくい。
- 4 新規に農業をするには家族の同意が必要という関門がある。
- 5 農村社会と都会生活とは、価値観が違い、戸惑うことがある。
- 6 女性の農業従事者育成も試みている。
- 7 小野市においても、農業従事者が高齢化になり、後継者不足は同じ悩みである。
- 8 地方自治体だけの取り組みには限界がある。
- 9 国全体において、抜本的な農業政策の取り組みが必要である。